

第3章 日常生活圏域ごとの地域特性

1 地域特性に応じた地域包括ケアシステムの構築に向けて

(1) 地域カルテについて

第8期計画期間においては、地域包括ケアシステムをさらに発展させた「大田区版地域共生社会」の実現に向けた取組を進めていきます。対象者・分野ごとに整備された専門機関・相談支援機関のネットワークを強靱化させていくとともに、相談内容に応じて公的サービス、社会福祉協議会の事業、地域による活動など、あらゆる資源を組み合わせ、解決に導く地域づくりを強化していきます。

そのためには、地域の現状や特徴を知ることが必要です。本章では、「地域カルテ」という形で日常生活圏域ごとに高齢者人口等の状況と推計、高齢者等実態調査でのリスク分析、通いの場の団体数やその種類、地域における課題と取組等を示しました。

保険者である区は、この「地域カルテ」を通じて地域住民の方や関係機関・団体等が地域課題を共有し、今後の取組などを共に考えるきっかけとして活用していただきたいと考えています。そして、それぞれの地域において当プランの基本理念である「高齢者が住み慣れた地域で、安心して暮らせるまちをつくる」との方向性に沿った取組が進められるよう、将来の大田区版地域共生社会の実現を視野に継続的に支援していきます。

地域カルテの記載事項は以下のとおりです。

各地域の掲載順は、大森、調布、蒲田、糀谷・羽田の基本圏域順になっています。

●地域の人口

令和2年10月1日現在の人口です。

●高齢者人口の推計

令和2年10月1日現在の高齢者人口を基礎数字として、令和7年、令和22年の人口を推計したものです。

注) 令和22年(2040年)の各地区の推計人口の合計は、17ページの推計人口とは一致しません。

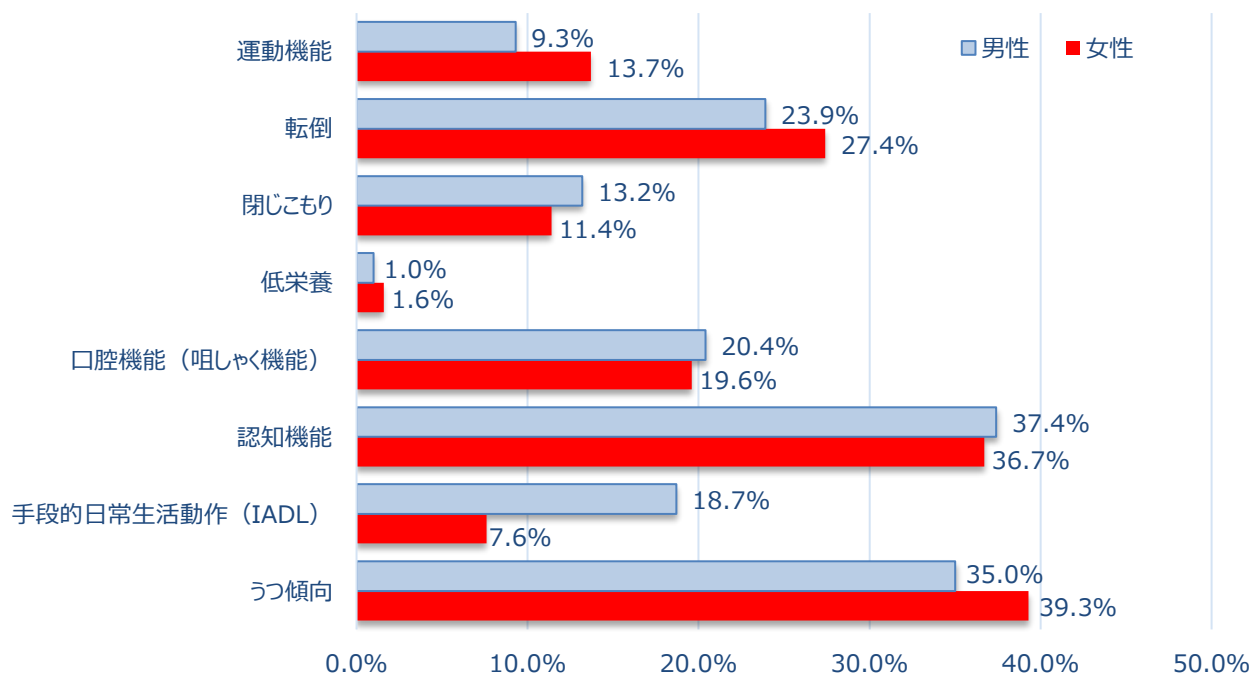
●介護予防・日常生活圏域ニーズ調査におけるリスク分析

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査は、「要介護状態になるリスクの発生状況」「各種リスクに影響を与える日常生活の状況」を把握することを目的に構成されたものです。

この調査の結果から、「運動機能」「転倒」「閉じこもり」「低栄養」「口腔機能(咀嚼機能)」「認知機能」「手段的日常生活動作(IADL)*」「うつ傾向」の8の評価項目を掲載しています。

大田区全体の結果については、下図のとおりです。

大田区全体のリスク分析



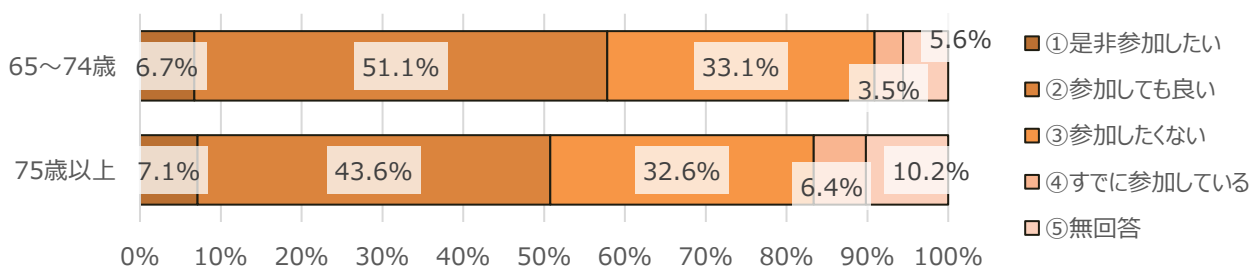
●要介護認定率

平成29年度と令和2年度の要介護認定率の推移を男女別・年齢階級別に示しています。

●地域づくりへの参加意向

令和元年度大田区高齢者等実態調査より、地域の有志による地域づくり活動へ参加者としての参加意向があるかという設問の結果を掲載しています。

大田区全体の結果については、下図のとおりです。



●通いの場

株式会社ウェルモが介護事業者・専門職向けに運営する地域資源情報の見える化サイト「MILMO net (ミルモネット)」に、令和2年7月31日現在、大田区内の「通いの場」として登録されている団体の情報を抽出し、地図へ落とし込んだものです。

※ウェルモ社と大田区は「大田区の地域資源の見える化及び活用の推進にかかる連携協定」を締結し、高齢者支援に必要な地域資源情報の活用を推進しています。

大森西

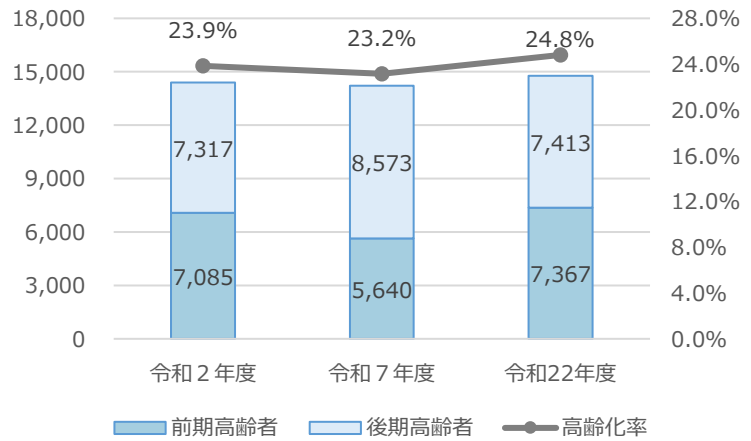
1 地域の人口

(令和2年10月1日現在)

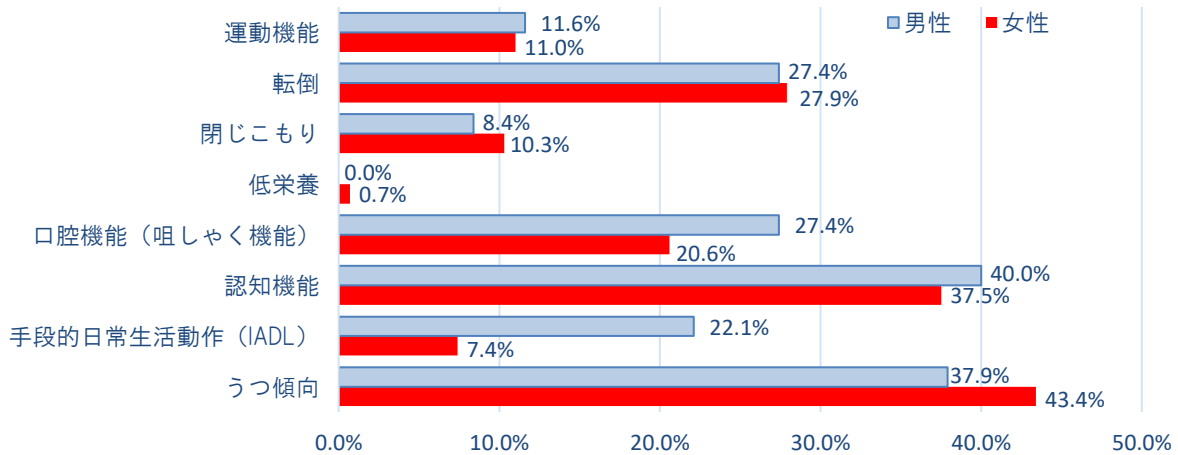
≪管轄人口≫ 60,367人

	男性	女性	割合
0～14歳	3,048	2,855	9.8%
15～64歳	21,110	18,952	66.4%
65～74歳	3,563	3,522	11.7%
75歳以上	2,915	4,402	12.1%
単身高齢者数	2,224	3,308	

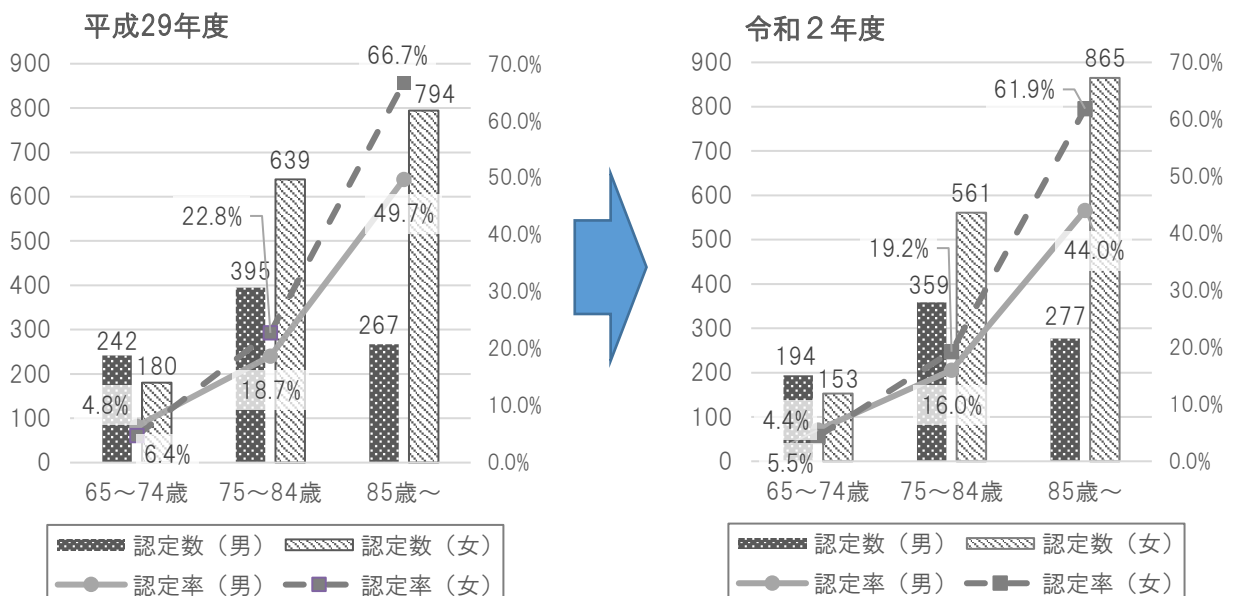
2 高齢者人口の推計



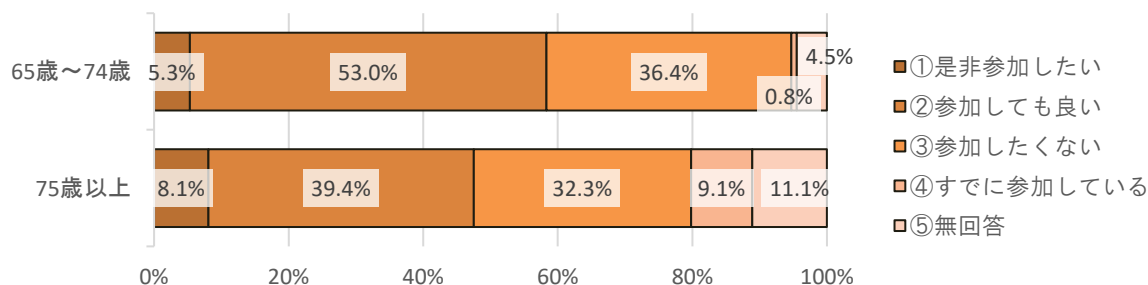
3 ニーズ調査におけるリスク分析 (令和元年度高齢者等実態調査より)



4 要介護認定率の推移



5 地域づくりへの参加意向（令和元年度高齢者等実態調査より）



6 通いの場

認知症予防・認知症カフェ	6 団体
体操	18 団体
趣味活動	5 団体
茶話会・会食	1 団体
その他	0 団体

※重複ありの施設

こらぼ大森・・・体操 10 団体

特養大森・・・認知症予防・認知症カフェ 2 団体

体操 2 団体

趣味活動 2 団体



「大森西地域の課題と取組」

● 地域の現状と課題

○大森西区民センターと大田区区民活動支援施設大森（こらぼ大森）、大森スポーツセンター等を中心にたくさんの自治会・町会、シニアクラブが共同でフレイル予防・介護予防に向けた取り組みを行っている。

○地域内には数多くの集合住宅が存在し、少子高齢化や核家族化等の進行に伴い単身高齢世帯や高齢者のみの世帯が増加する中で、ひきこもり・老老介護・認知症等の潜在的な課題が存在している。

● 課題への取組

○地域のつながりを強化し、地域全体で安全・安心なまちづくりにむけ、日常生活圏域レベル地域ケア会議を通じて「元気なうちにつながろう」をテーマに、地域の絆つくりの取り組みを開始している。

○高齢者見守りキーホルダーをツールの一つとして活用し、地域における見守り体制として地域のネットワーク構築に取り組んでいる。

○民生委員、自治会・町会、シニアクラブと包括支援センターとで協力して、全国的に実施されている高齢者見守り声かけ訓練を行い、安心して住み続けられるまちづくりを進めている。

入新井

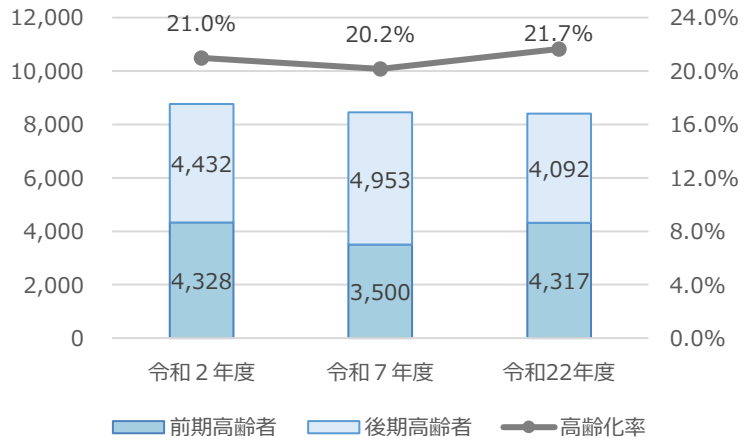
1 地域の人口

(令和2年10月1日現在)

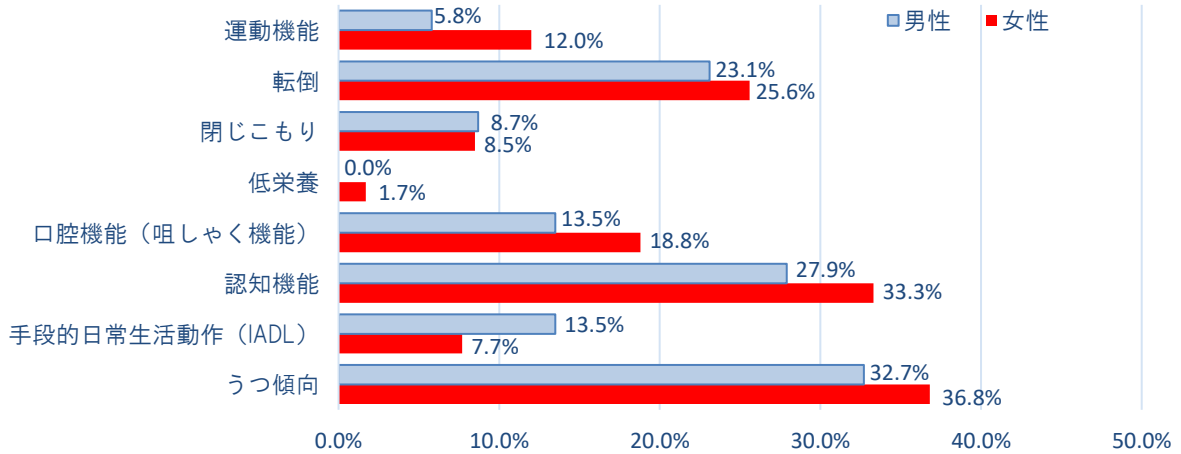
≪管轄人口≫ 41,767人

	男性	女性	割合
0～14歳	2,299	2,189	10.7%
15～64歳	14,923	13,596	68.3%
65～74歳	2,135	2,193	10.4%
75歳以上	1,690	2,742	10.6%
単身高齢者数	1,154	2,095	

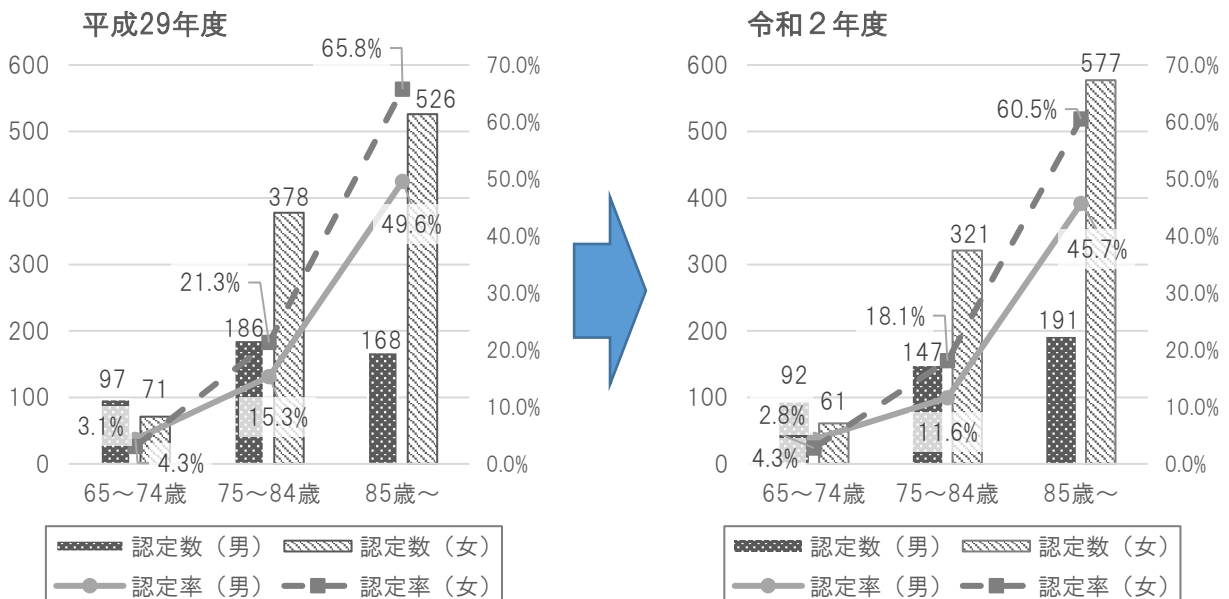
2 高齢者人口の推計



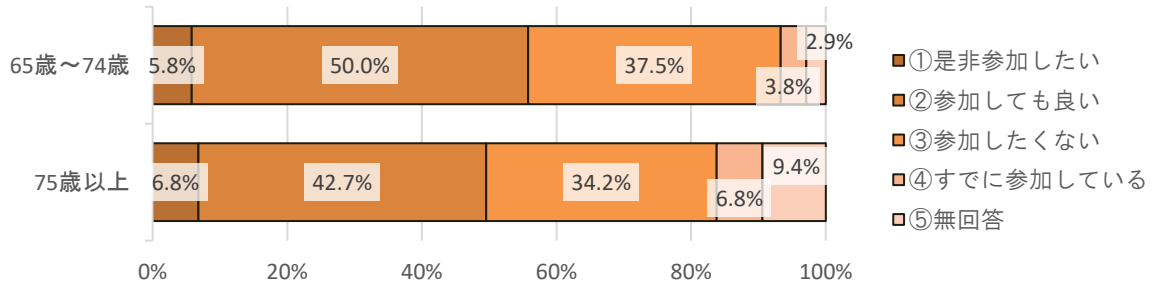
3 ニーズ調査におけるリスク分析 (令和元年度高齢者等実態調査より)



4 要介護認定率の推移



5 地域づくりへの参加意向（令和元年度高齢者等実態調査より）

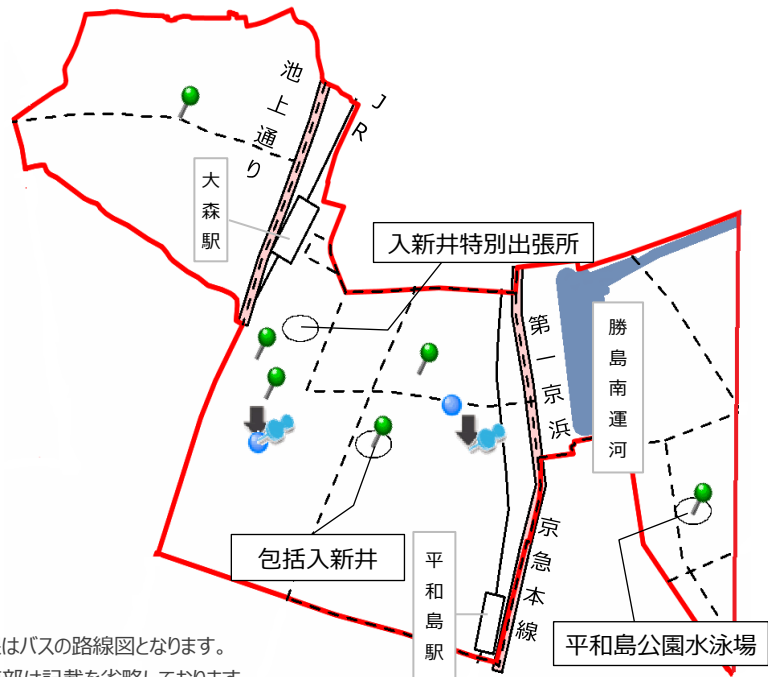


6 通いの場

認知症予防・認知症カフェ	0 団体
体操	6 団体
趣味活動	3 団体
茶話会・会食	1 団体
その他	2 団体

※重複ありの施設

最徳寺・・・趣味活動 2 団体



＜入新井地域の課題と取組＞

●地域の現状と課題

- 大型マンション・集合住宅・戸建てが混在している地域で、オートロック・世代間格差・生活スタイルの違いにより、住民同士の繋がりが希薄化。
- 高齢による友人関係の解消（他界・認知症など）による孤立。
- 地域住民の方が相談したいと思ったときに相談場所が分からない、地域包括支援センターは具合が悪くなったときに行くところの認識があるなど地域包括支援センターの認知が不足している。
- 地域住民の方が徒歩圏内で行ける集いの場がエリアにより不足している。

●課題への取組

- 関係者間の連携により、徒歩圏内、参加しやすい条件を踏まえ、地域毎の小さな集いを複数回実施していく。
- 集いの実施により、専門職などの繋がりがや地域包括支援センターの認知の向上を図れるようにする。

馬込

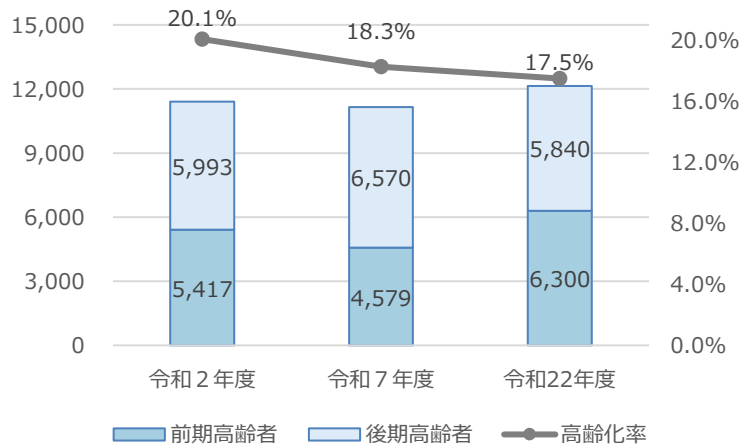
1 地域の人口

(令和2年10月1日現在)

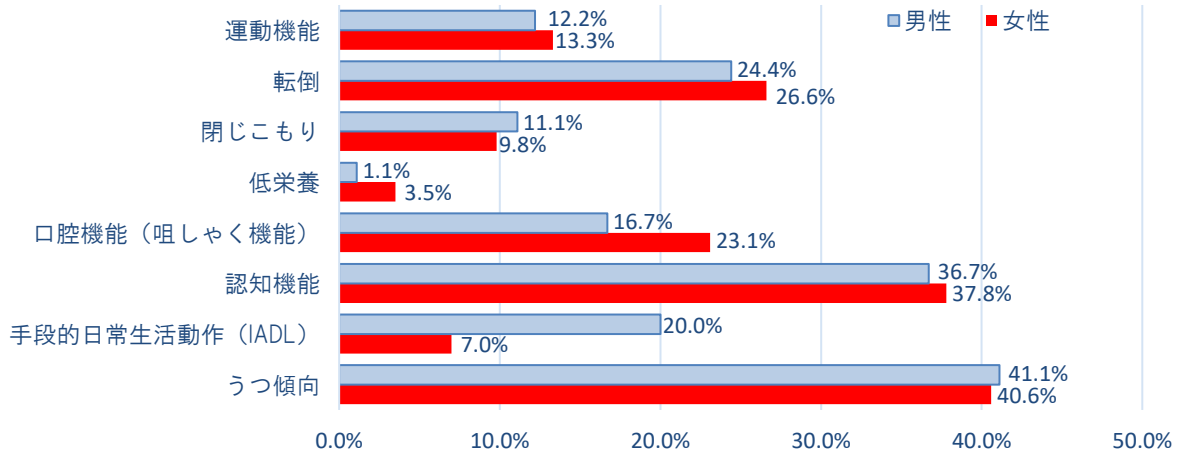
≪管轄人口≫ 56,859人

	男性	女性	割合
0～14歳	3,381	3,305	11.8%
15～64歳	19,760	19,003	68.2%
65～74歳	2,626	2,791	9.5%
75歳以上	2,290	3,703	10.5%
単身高齢者数	1,279	2,602	

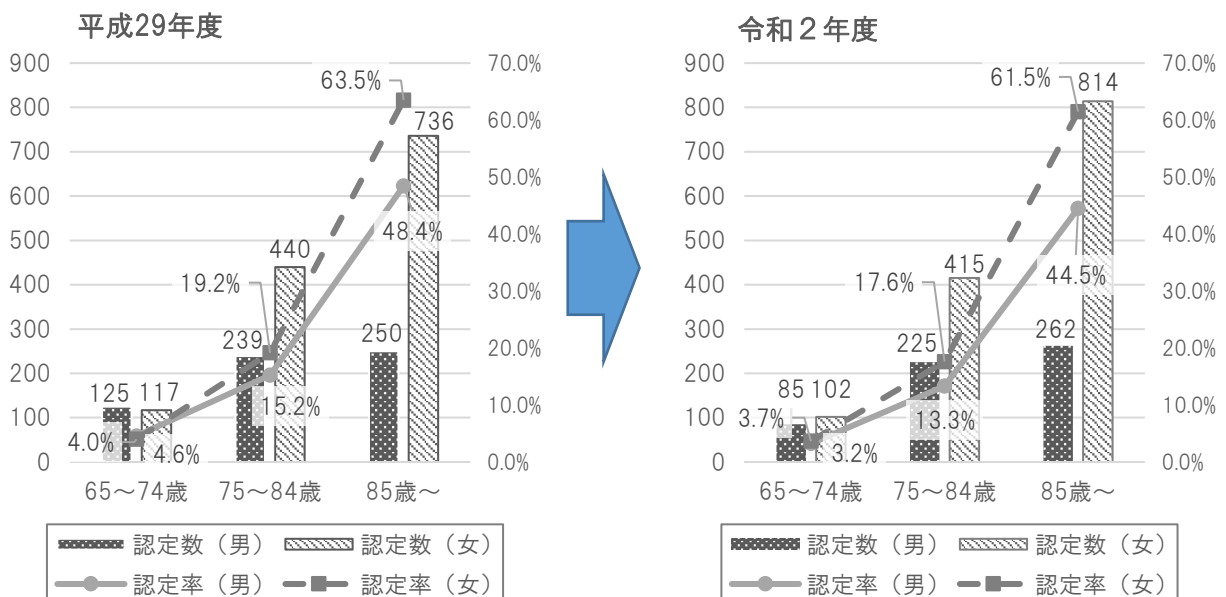
2 高齢者人口の推計



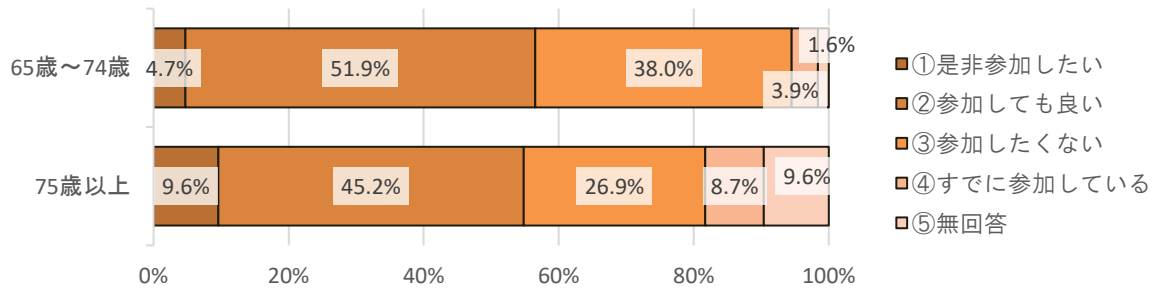
3 ニーズ調査におけるリスク分析 (令和元年度高齢者等実態調査より)



4 要介護認定率の推移

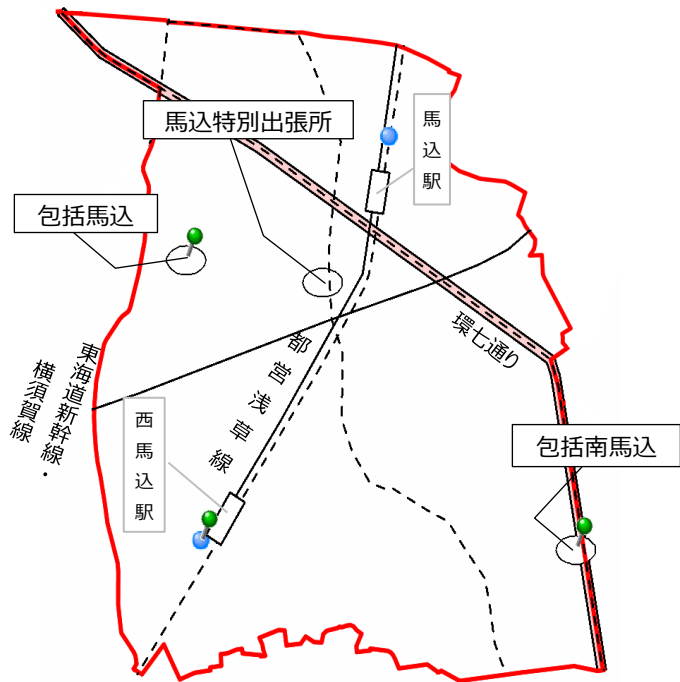


5 地域づくりへの参加意向（令和元年度高齢者等実態調査より）



6 通いの場

認知症予防・認知症カフェ	0 団体
体操	3 団体
趣味活動	0 団体
茶話会・会食	0 団体
その他	2 団体



※点線はバスの路線図となります。

《馬込地域の課題と取組》

●地域の現状と課題

- 令和2年4月から馬込地区の地域包括支援センターが2ヶ所となった。
- 新設センター（南馬込）が地域に浸透していない。
- スーパーやコンビニ、薬局等に地域包括支援センターを案内するも、もともと知らなかったという返答が多い状況である。地域包括支援センターの地域全体への周知徹底をはかる必要がある。
- 通いの場等の数が少ないことも課題のひとつとしてあげられる。馬込地区は九十九谷と呼ばれるほど、坂が多い地域であり、足腰がある程度強くなければ買い物に出かけることが難しい。
- 元気なうちに介護予防やフレイル予防（以下、予防事業）を知り、実践していく事が重要になってくる。
- 通いの場等の設置、充実をはかり、いつまでも馬込地区で元気に生活ができる身体づくりの土台を築くことが至要である。

●課題への取組

- 地域団体等に向け、各種出前講座等を開催し、地域包括支援センターの周知徹底をはかる。
- 各シニアステーションにて各々月間50回超の予防事業講座を実施する。

池上

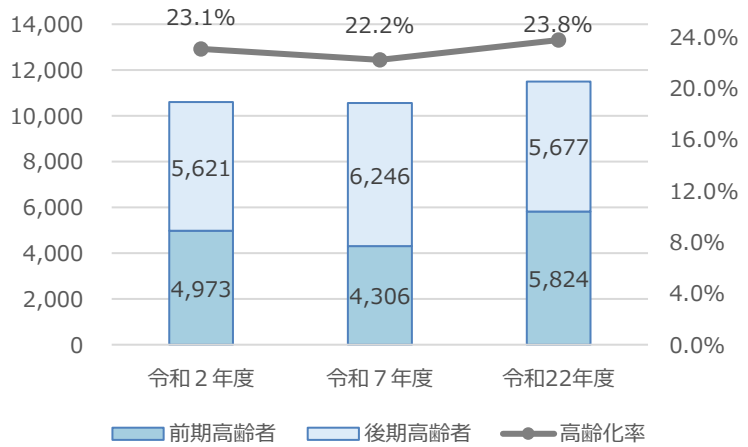
1 地域の人口

(令和2年10月1日現在)

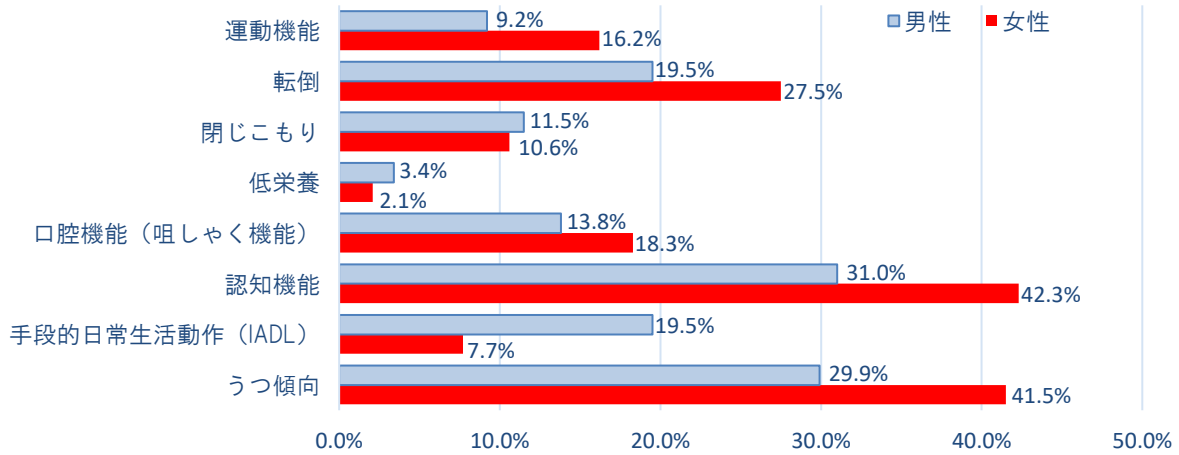
≪管轄人口≫ 45,927人

	男性	女性	割合
0～14歳	2,681	2,481	11.2%
15～64歳	15,373	14,798	65.7%
65～74歳	2,394	2,579	10.8%
75歳以上	2,103	3,518	12.2%
単身高齢者数	1,270	2,573	

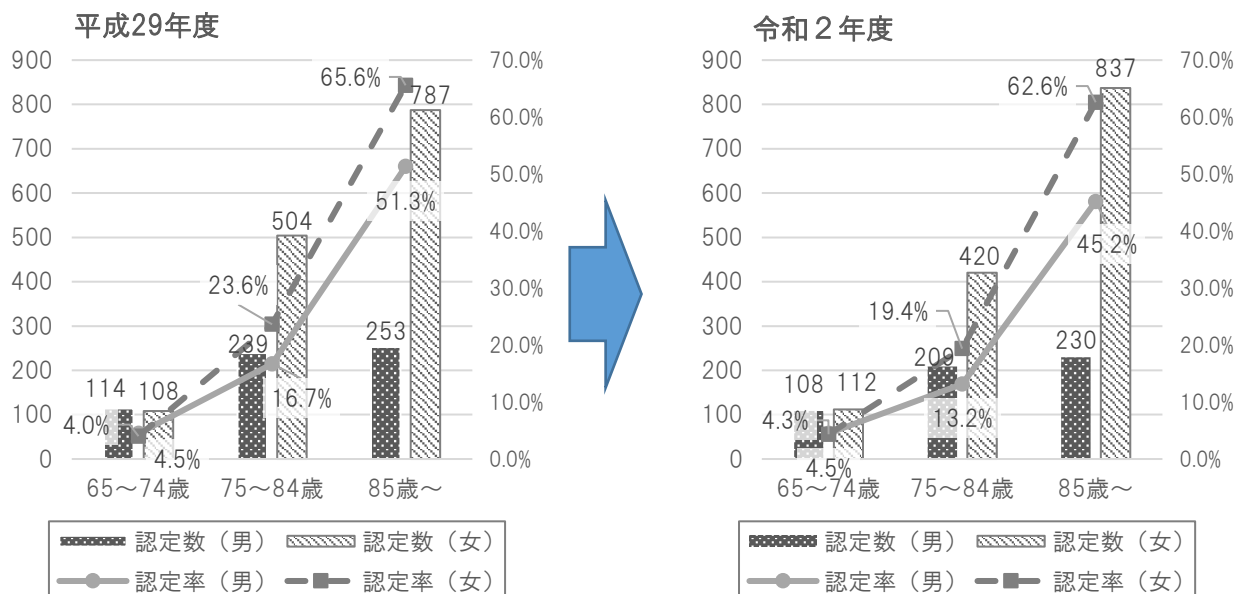
2 高齢者人口の推計



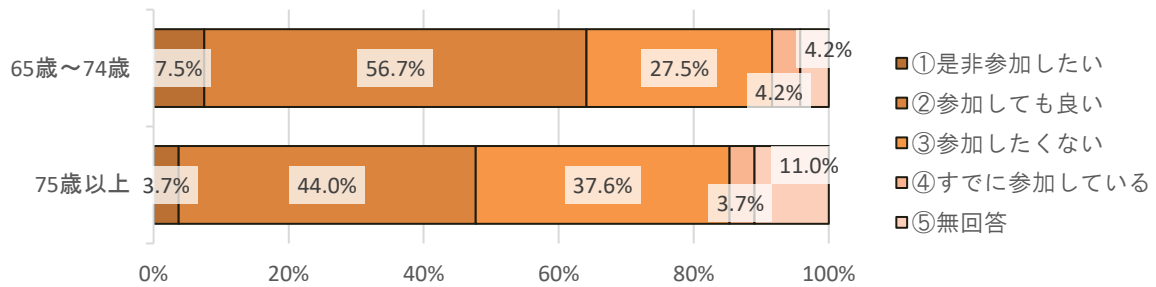
3 ニーズ調査におけるリスク分析 (令和元年度高齢者等実態調査より)



4 要介護認定率の推移



5 地域づくりへの参加意向（令和元年度高齢者等実態調査より）

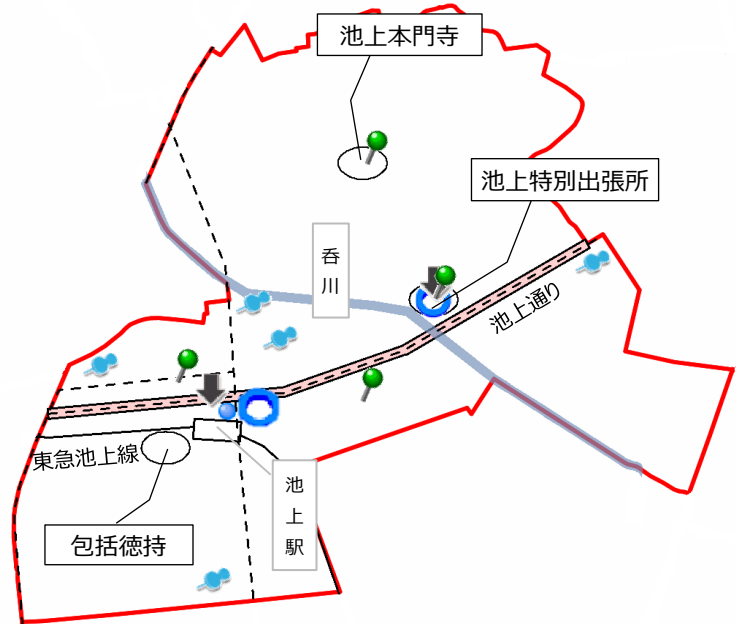


6 通いの場

認知症予防・認知症カフェ	2 団体
体操	4 団体
趣味活動	5 団体
茶話会・会食	3 団体
その他	2 団体

※重複ありの施設

池上特別出張所・・・茶話会・会食 2 団体



※点線はバスの路線図となります。

《池上地域の課題と取組》

●地域の現状と課題

- 管内のほぼ中心に池上本門寺がある。毎朝ラジオ体操の時間に周辺の高齢者が自主的に参集したり、お祭り等の様々なイベントが開催されており、地域コミュニティーの中心になっている。
- 11 自治会・町会が参加する池上地区まちおこしの会を中心に、地域活動が活発に行われている。
- 地域包括支援センターへの相談件数が多く、フレイル予防や介護予防への意識が高い地域と考えられ、介護系の事業所が通所・訪問・グループホーム合わせて 30 か所存在するが、さらなる高齢者に対する支援が求められる。

●課題への取組

- サービスを受給できていない方が受給できるよう、民生委員や地元の有志と連携を図り、自主グループの育成に努める。
- 安否不明者の通報シートを活用し、地域の見守り推進業者と連携を図る。
- 日常生活圏域レベル地域ケア会議の課題である、社会資源の把握をするため、独自の情報誌を作成し積極的に配布する。
- 地域包括ケアシステムについて、サービス提供事業者のみならず、地域の高齢者を含むあらゆる地域の方々と共有認識を深めるための機会を作る。

新井宿

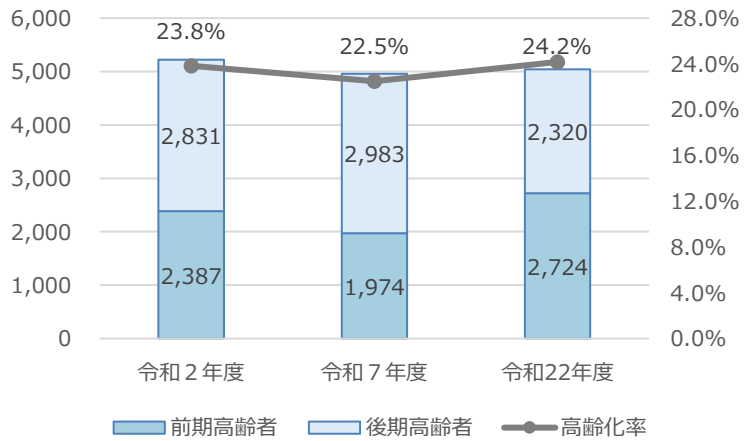
1 地域の人口

(令和2年10月1日現在)

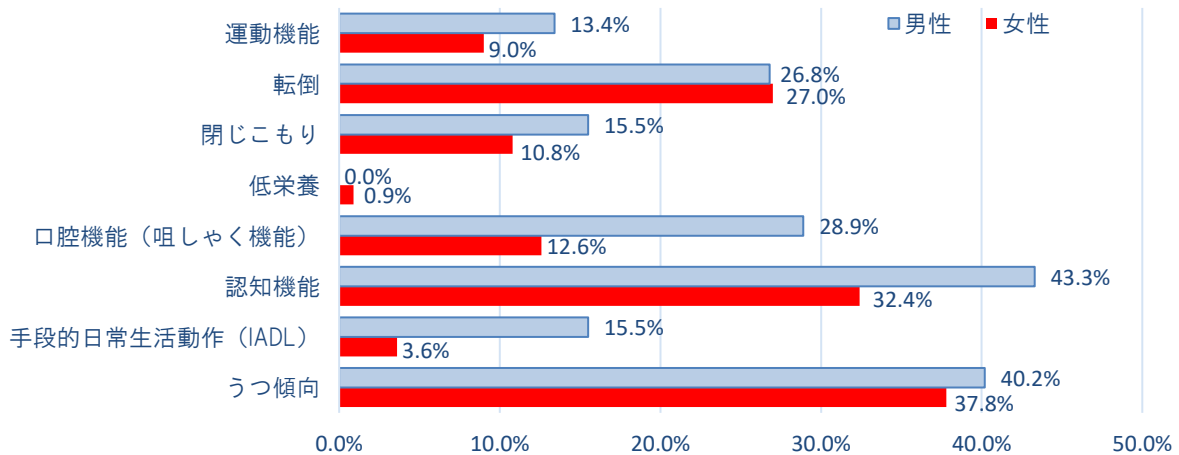
≪管轄人口≫ 21,901人

	男性	女性	割合
0～14歳	1,320	1,185	11.4%
15～64歳	7,345	6,833	64.7%
65～74歳	1,134	1,253	10.9%
75歳以上	1,106	1,725	12.9%
単身高齢者数	612	1,205	

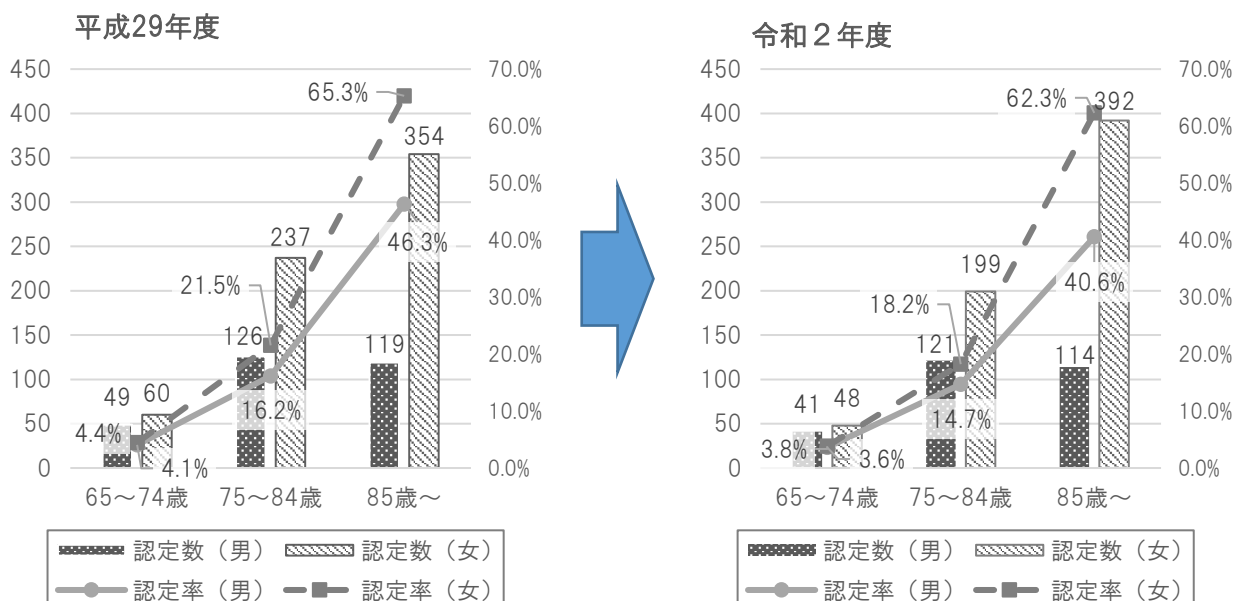
2 高齢者人口の推計



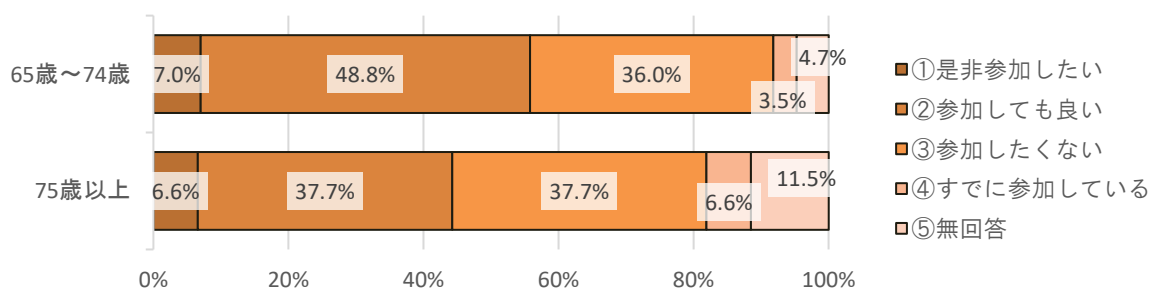
3 ニーズ調査におけるリスク分析 (令和元年度高齢者等実態調査より)



4 要介護認定率の推移



5 地域づくりへの参加意向（令和元年度高齢者等実態調査より）



6 通いの場

	認知症予防・認知症カフェ	1 団体
	体操	7 団体
	趣味活動	7 団体
	茶話会・会食	1 団体
	その他	0 団体

※重複ありの施設

新井宿特別出張所・・・趣味活動 4 団体

入新井第 2 小学校・・・体操 2 団体

さぼーとびあ・・・趣味活動 2 団体



《新井宿地域の課題と取組》

●地域の現状と課題

- 高齢化率が 23.8%と区内では 5 番目に高い地域である。
- 一部の地区以外は最寄り駅まで遠く、バスが主な交通手段である。心身の機能低下によりバスの乗降が困難になると公共交通機関での移動ができなくなる。
- 急坂の上の地域にはバスが通っていない為、心身の機能低下が外出困難となることに直結しやすい。
- 地域内に銭湯がなく、上記状態に陥ると入浴難民となる可能性が高い。
- 以上の事から、積極的に心身の機能低下を予防することが課題である。

●課題への取組

- 心身機能の低下予防に繋がる多くの通いの場があるが、地域の方に、『通いの場』について理解を深めていただき、有効活用していただくことが重要であると考えます。
- 通いの場として公共性の高い『新井宿老人いこいの家』を地域に向けて PR するとともに、山王地域の通いの場へも目を向けていただけるような取り組みを行っていく。
- 新井宿地区では、山王三・四丁目自治会が積極的に高齢者の見守り活動を行い、新井宿観音会が高齢者の交流の場となる茶話会を開催するなど、地域における取組が活発に行われている。こうした取組との連携も重要である。

嶺町

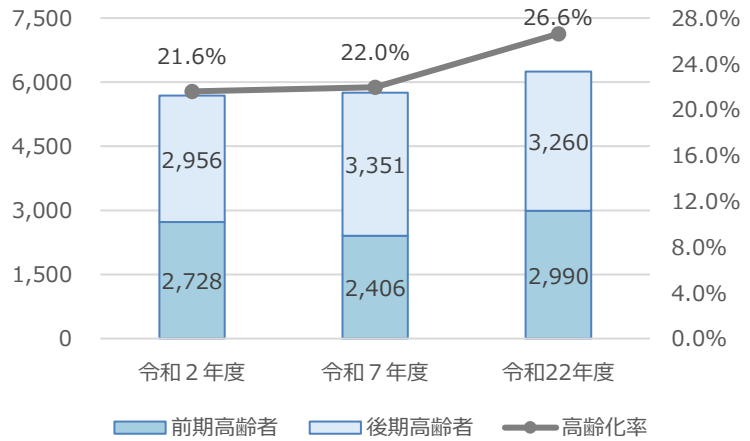
1 地域の人口

(令和2年10月1日現在)

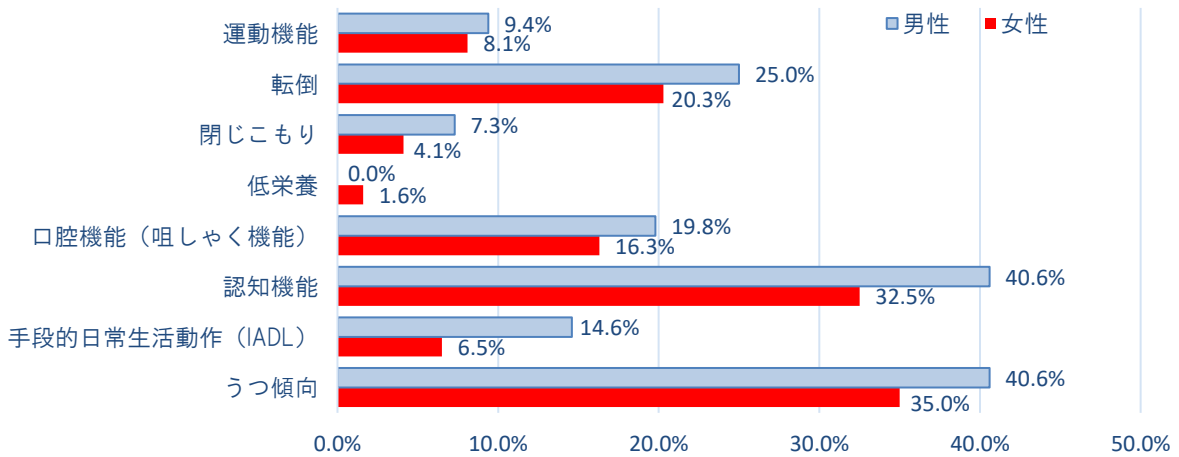
≪管轄人口≫ 26,321人

	男性	女性	割合
0～14歳	1,453	1,469	11.1%
15～64歳	8,543	9,172	67.3%
65～74歳	1,263	1,465	10.4%
75歳以上	1,111	1,845	11.2%
単身高齢者数	560	1,361	

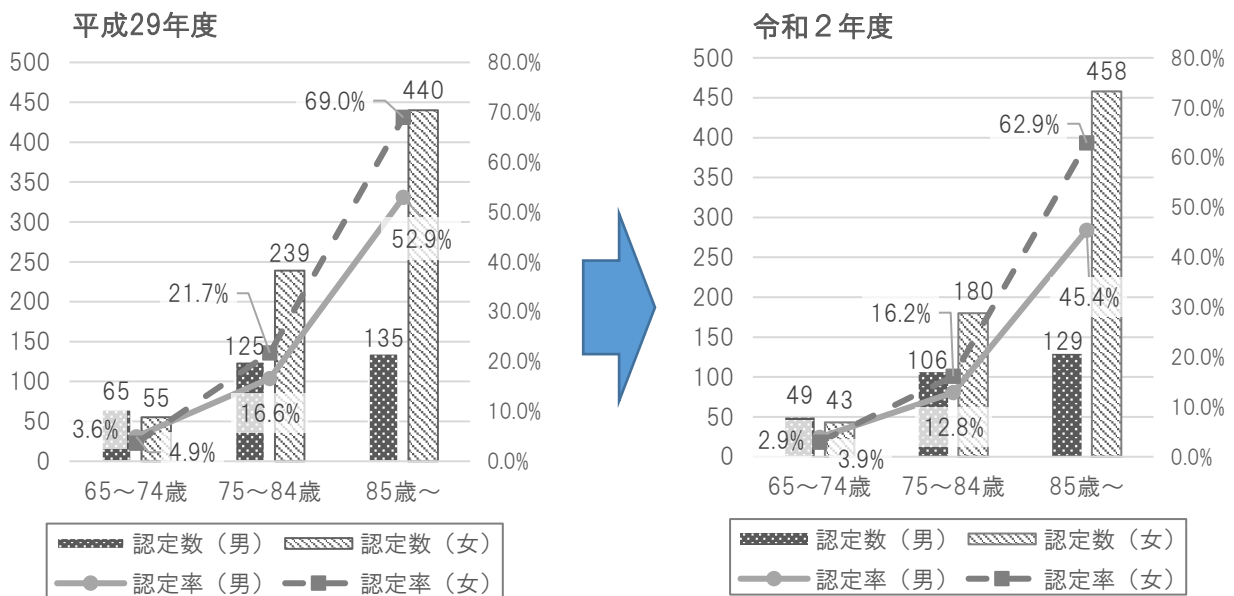
2 高齢者人口の推計



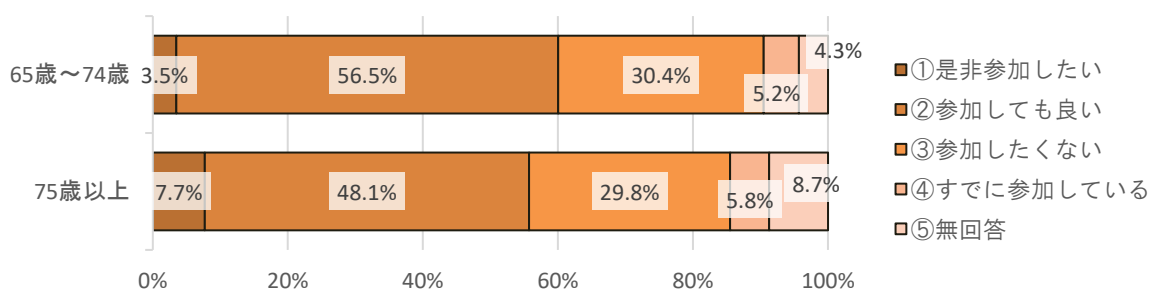
3 ニーズ調査におけるリスク分析 (令和元年度高齢者等実態調査より)



4 要介護認定率の推移



5 地域づくりへの参加意向（令和元年度高齢者等実態調査より）



6 通いの場

認知症予防・認知症カフェ	1 団体
体操	11 団体
趣味活動	1 団体
茶話会・会食	2 団体
その他	8 団体

※重複ありの施設

シニアステーション東嶺町・・・体操 10 団体

嶺町特別出張所・・・茶話会・会食 2 団体

その他 2 団体



※点線はバスの路線図となります。

《嶺町地域の課題と取組》

●地域の現状課題

○元気シニアプロジェクトのモデル地域として地域が一体となってフレイル予防に取り組んだ結果、プロジェクト終了後も健康維持のため運動を実践している率が区の平均より5ポイント以上高く、要介護認定率も下がっている。

○地区自治会連合会が中心となり、垣根を超えたまちづくりに取り組んでおり、幸福度が高く、生きがいをもって生活していると感じている高齢者の多い地域となっている。

○地域包括支援センターの認知度が区内で最も高く、周囲に頼らず自力課題解決に繋がられる方が多い。

○地域のつながりの必要性は感じているものの、実際のつながりを感じていないとの結果も出ているので、今後はさらに安心して暮らすことができるまちづくりを目指し、地域のつながりを強固にすることが課題となっている。

●課題への取組

○高齢者一人ひとりが自分の健康を維持できるよう、フレイル予防のイベントは今後も継続していく。

○地域活動への参加経験がない方に向けて、住民同士のつながりを持てるような仕組み作りに取り組んでいく。

○同一建物に特別出張所と文化センター、地域包括支援センターなどの各種機関が入っており、世代を超えた取り組みが行いやすい環境となっている。様々な機関の連携強化のもと、まちづくり推進委員会（地区地域力推進委員会）や地域ケア会議を活用し、課題の共有や検討を行い、皆が協力して取り組んでいける関係作りを推進する。

○次世代へつなぐため、あらゆる世代の地域住民が交流できる、地域共生社会の実現に向けて取り組んでいく。

田園調布

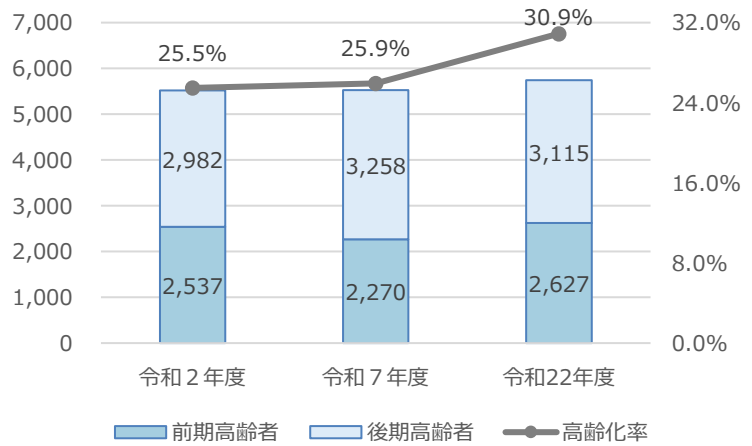
1 地域の人口

(令和2年10月1日現在)

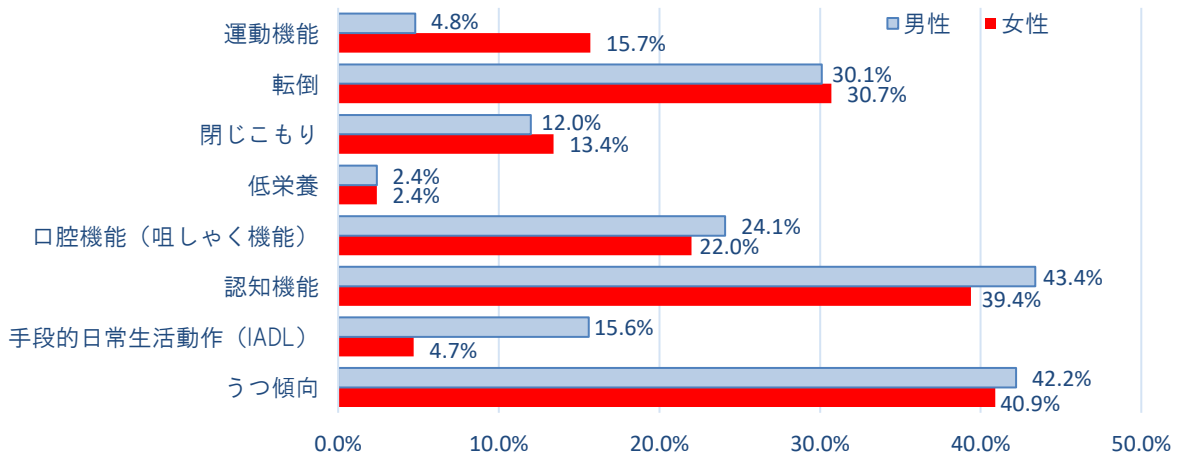
≪管轄人口≫ 21,658人

	男性	女性	割合
0～14歳	1,242	1,215	11.3%
15～64歳	6,525	7,157	63.2%
65～74歳	1,156	1,381	11.7%
75歳以上	1,123	1,859	13.8%
単身高齢者数	374	1,235	

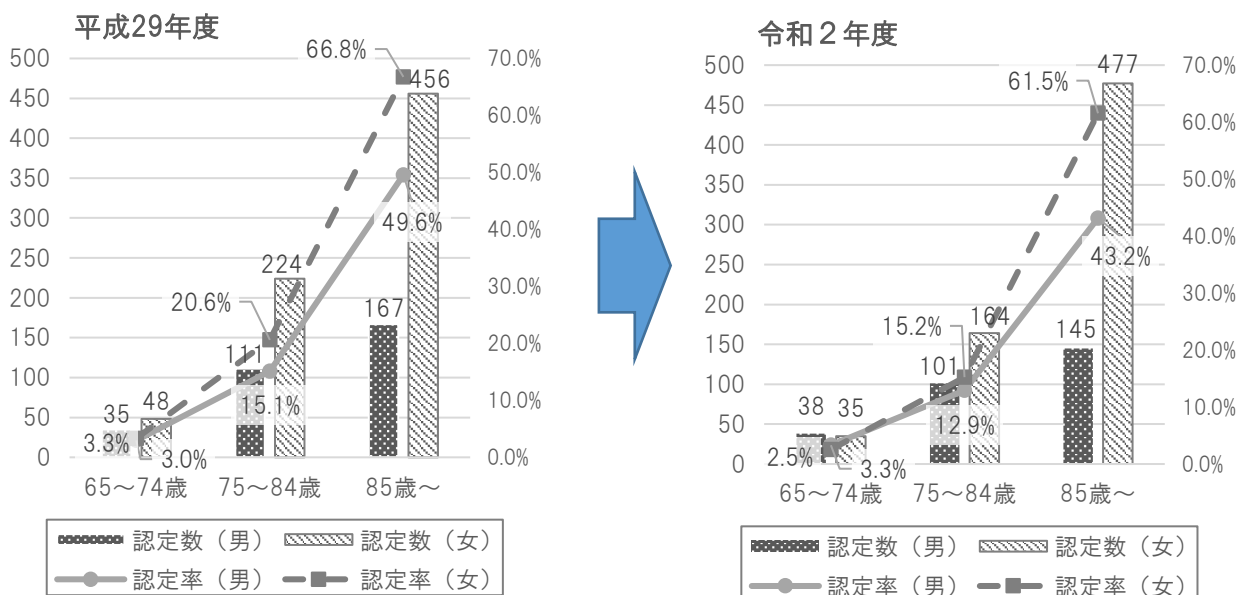
2 高齢者人口の推計



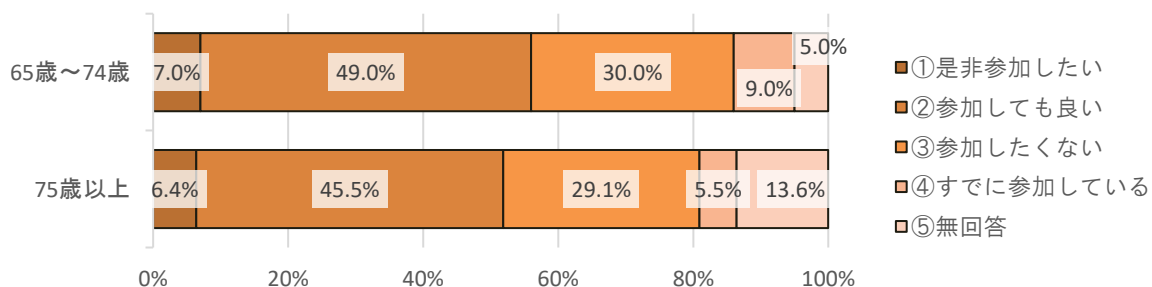
3 ニーズ調査におけるリスク分析 (令和元年度高齢者等実態調査より)



4 要介護認定率の推移



5 地域づくりへの参加意向（令和元年度高齢者等実態調査より）



6 通いの場

認知症予防・認知症カフェ	2 団体
体操	16 団体
趣味活動	9 団体
茶話会・会食	1 団体
その他	1 団体

※重複ありの施設

包括田園調布・・・認知症予防	2 団体
体操	5 団体
趣味活動	5 団体
シニアステーション田園調布西・・・体操	6 団体
趣味活動	2 団体



※点線はバスの路線図となります。

≪田園調布地域の課題と取組≫

●地域の現状と課題

- 地区は3か所の大きな公園を有し、緑の多い静かな住宅街が広がっている。一方で商業施設は少なく、急な坂道の移動が避けられない地域も存在する。
- 9つの自治会・町会があり、毎年恒例の地区連合会行事「田園調布グリーンフェスタ」を開催している。
- 平成28年度から、自治会・町会を中心に、民生委員、地域住民、住民の健康と生活を支える商業施設、地域活動団体などが一体で「元気シニアプロジェクト」を進めており、現在も活発に活動している。
- 高齢化率は25パーセントを上回り、区内でトップだが、実態調査から生涯を自宅で過ごすことを希望し、生きがいを持って生活している高齢者の割合が高く、フレイル予防実践率が高いことが確認された。
- 商業施設が少ないことから、高齢化が進むにつれて買い物や外出が困難になることが想定されるため、閉じこもりによる鬱傾向や認知機能の低下、フレイル状態に至らないよう、引き続き意識を高める必要がある。

●課題への取組

- 令和2年度には地域住民の憩いの場となる「田園調布せせらぎ館」が開館した。地域交流拠点のひとつとして、フレイル予防や情報発信などに取り組んでいく。
- 地域課題を話し合いながら、タイムリーにフレイル予防に取り組んでいけるよう、ささえる人、ささえられる人が連携する体制をさらに整えていく。

鶉の木

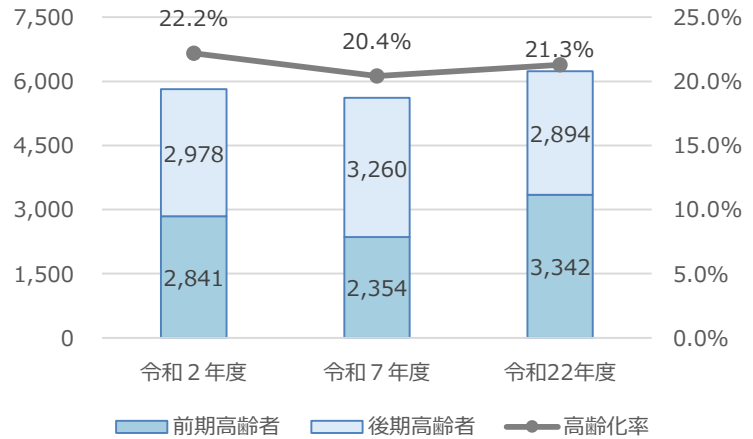
1 地域の人口

(令和2年10月1日現在)

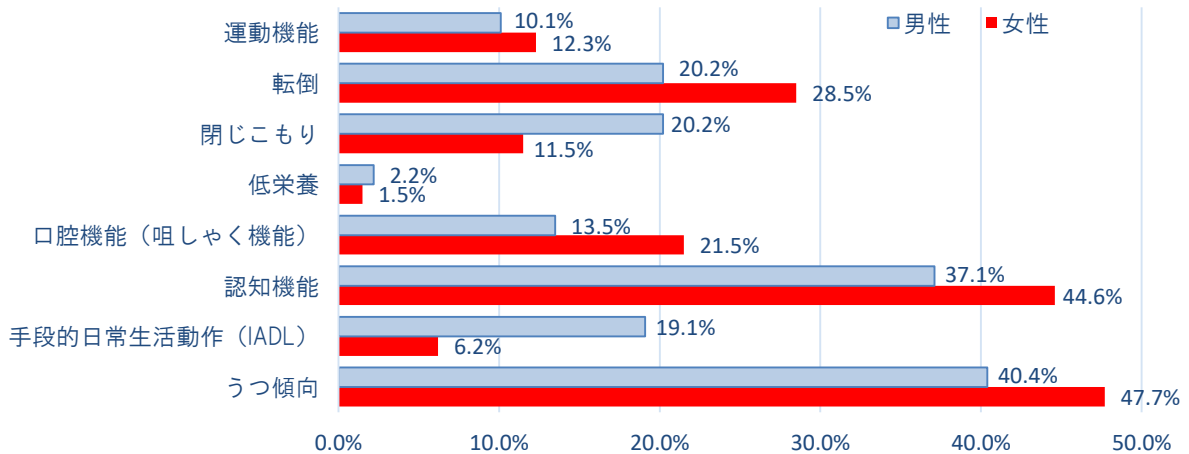
≪管轄人口≫ 26,217人

	男性	女性	割合
0～14歳	1,519	1,496	11.5%
15～64歳	8,370	9,013	66.3%
65～74歳	1,395	1,446	10.8%
75歳以上	1,089	1,889	11.4%
単身高齢者数	740	1,483	

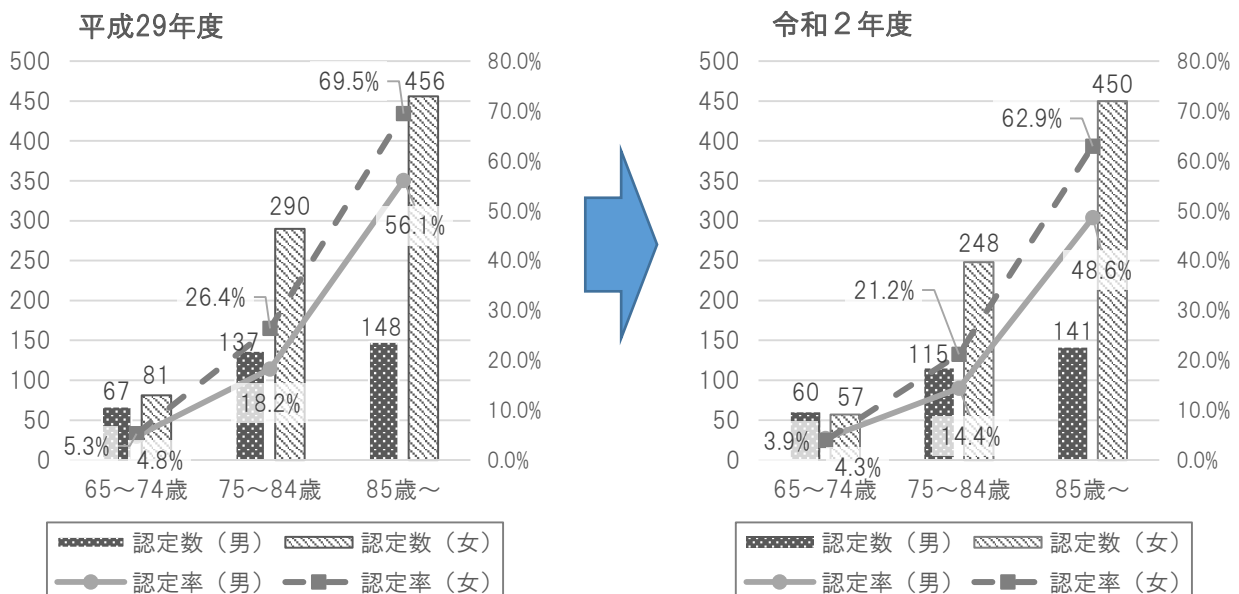
2 高齢者人口の推計



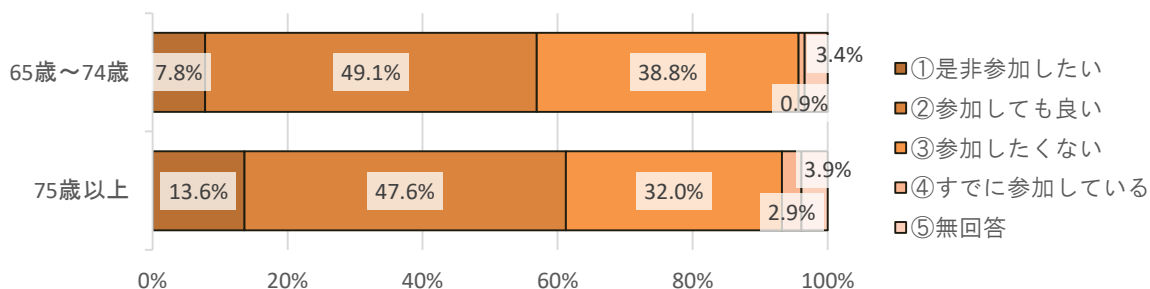
3 ニーズ調査におけるリスク分析 (令和元年度高齢者等実態調査より)



4 要介護認定率の推移



5 地域づくりへの参加意向（令和元年度高齢者等実態調査より）

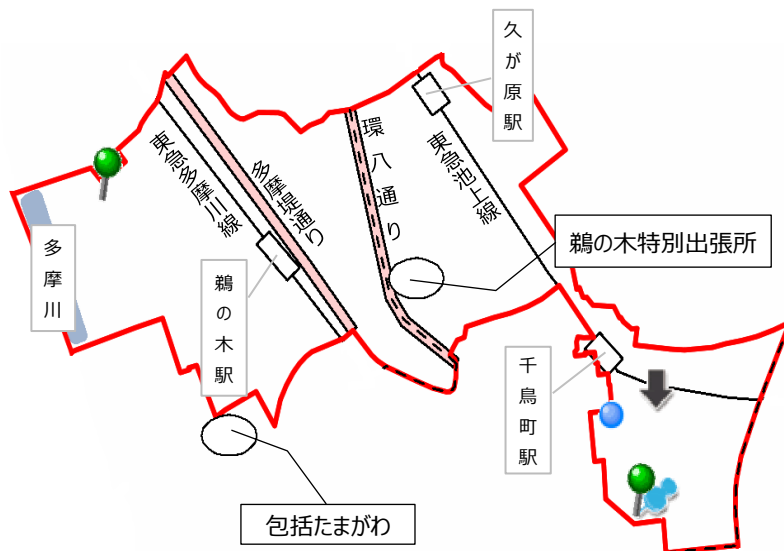


6 通いの場

認知症予防・認知症カフェ	0 団体
体操	4 団体
趣味活動	1 団体
茶話会・会食	1 団体
その他	1 団体

※重複ありの施設

プラムハイツ千鳥・・・体操 3 団体



※点線はバスの路線図となります。

＜＜鷺の木地域の課題と取組＞＞

●地域の現状と課題

- 鷺の木元気塾や高齢者フェスタを中心とした地域のささえあい活動が根付いている。
- オアシス運動では元気なあいさつで明るい街づくりを推進している。
- 多摩川を活用した「水辺の楽校」開催など、イベントだけでなく散歩道として河川敷が活動の場となっている。
- 大規模なマンションもあり、若い世代が増えている。
- 高齢者だけの世帯も増えている。
- 多摩川に面している地域もあるため、水害発生時の防災活動方針の整備が必要である。

●課題へ取組

- 町会が中心となり、高齢者が参加できるイベントを多く開催していく。
- 商店街はお店と買い物客の間でコミュニケーションがあり、高齢者の声かけ見守りの場となっているため今後も取り組んでいく。
- 全国鷺の木祭りや商店街の盆踊りなど幅広い世代が参加するお祭りが多く、今後も防災訓練での餅つきなど世代間交流できるような取り組みを継続し、様々な世代で助け合うことができるような防災活動方針の整備に取り組んでいく。

久が原

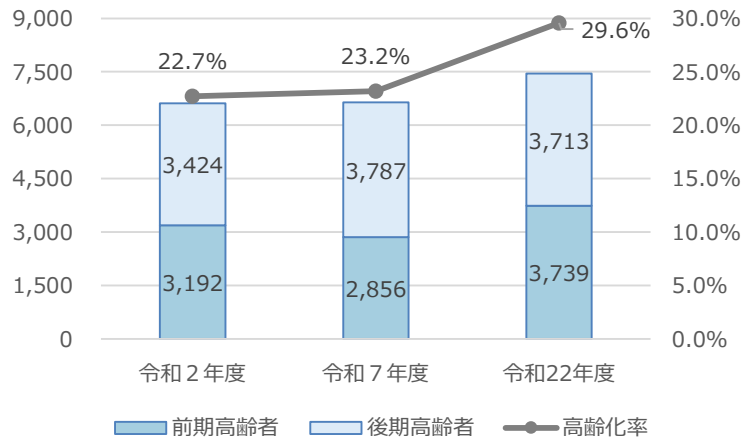
1 地域の人口

(令和2年10月1日現在)

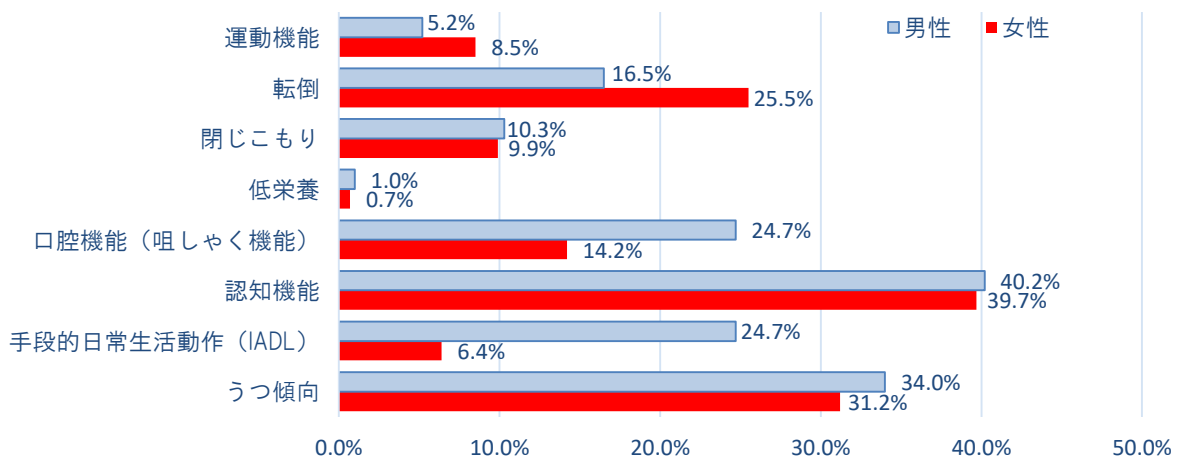
≪管轄人口≫ 29,143人

	男性	女性	割合
0～14歳	1,976	1,899	13.3%
15～64歳	9,303	9,349	64.0%
65～74歳	1,528	1,664	11.0%
75歳以上	1,331	2,093	11.7%
単身高齢者数	581	1,382	

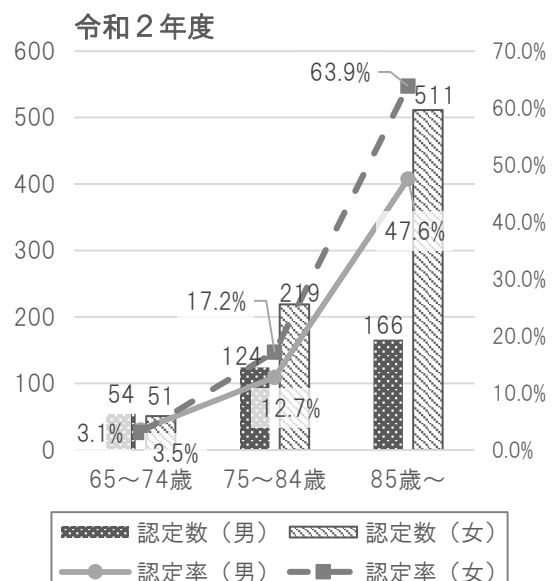
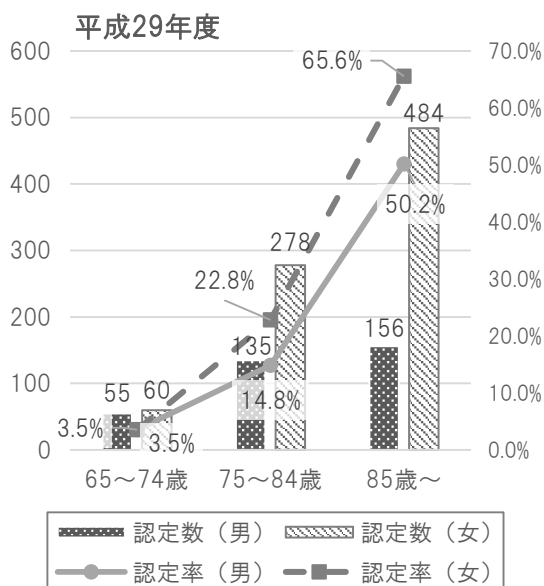
2 高齢者人口の推計



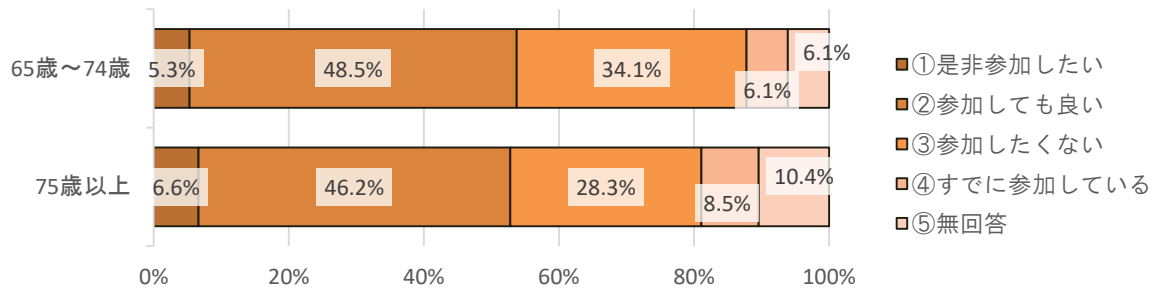
3 ニーズ調査におけるリスク分析 (令和元年度高齢者等実態調査より)



4 要介護認定率の推移



5 地域づくりへの参加意向（令和元年度高齢者等実態調査より）

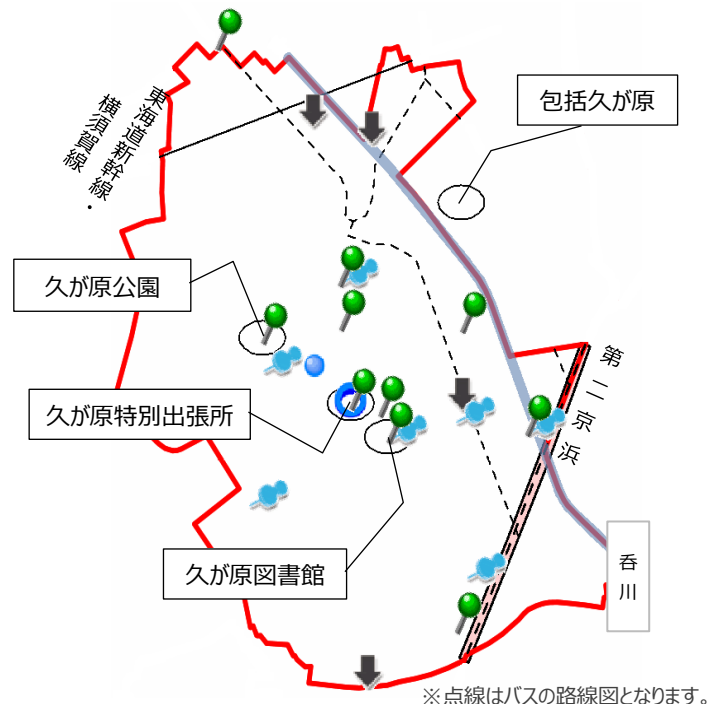


6 通いの場

認知症予防・認知症カフェ	1 団体
体操	16 団体
趣味活動	11 団体
茶話会・会食	4 団体
その他	1 団体

※重複ありの施設

- 久が原図書館・・・体操 4 団体
趣味活動 2 団体
- 久が原会館・・・体操 3 団体
趣味活動 3 団体
- ウエルケアガーデン久が原・・・趣味活動 2 団体



《久が原地域の課題と取組》

●地域の現状と課題

- 久が原地区地域防災協議会を設置し、「安心安全なまち久が原」の実現を目指して地域の防災活動に力を入れており、日ごろから高齢者が地域と顔の見える関係を築くことを大切にしている。
- イベントや地域の自主グループ参加者が多く、日常の家事ができていないなど運動機能の低下は比較的少ない。
- 地域づくりへの参加を望まない層も一定程度存在している。
- 地域活動への新しいメンバーの参加及びその継続に課題があり、新しい輪が広がらない。
- 住み慣れた地域で暮らし続けられるよう、災害時に備えて支えあいの関係をより強固にする必要がある。

●課題への取組

- 世代を問わずご近所同士で声を掛け合える雰囲気づくりに取り組む。
- 久が原ルール(防災の取組み)の「自助・近助・共助・公助」を推進し、多世代交流ができる仕組みが構築できるように発展する。
- 自治会、民生委員、久が原特別出張所、地域包括支援センターを中心に様々な団体と連携を図り、「安心安全なまち久が原」の実現を目指す。
- 地域の様々な年代の方に向けて認知症サポーター養成講座を開催し、認知症を理解して地域で緩やかな見守りができる環境づくりを推進する。

雪谷

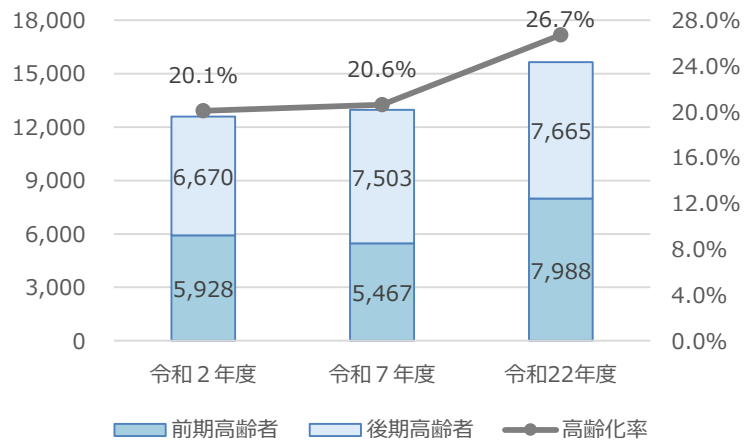
1 地域の人口

(令和2年10月1日現在)

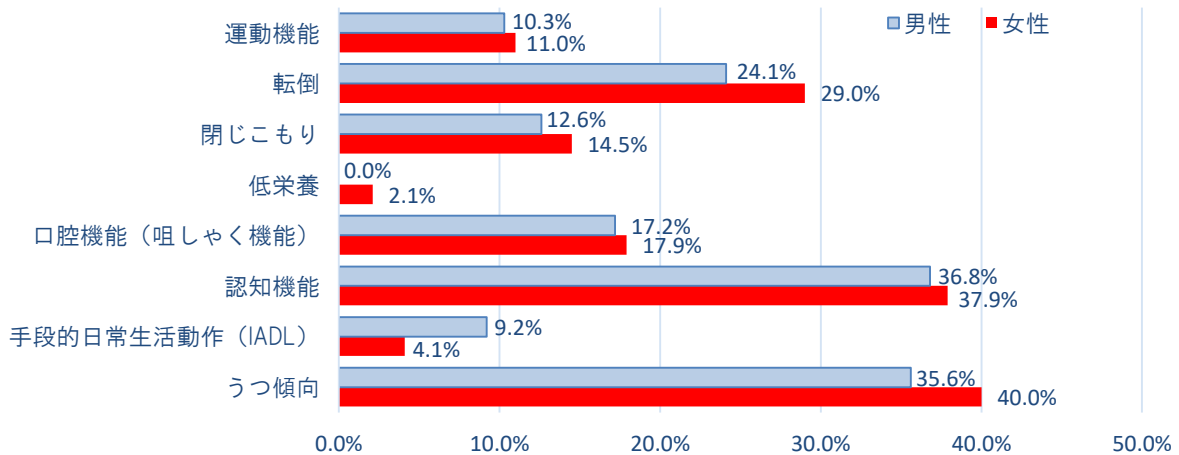
《管轄人口》 62,675人

	男性	女性	割合
0～14歳	4,010	3,861	12.6%
15～64歳	20,764	21,442	67.3%
65～74歳	2,803	3,125	9.5%
75歳以上	2,538	4,132	10.6%
単身高齢者数	1,223	2,831	

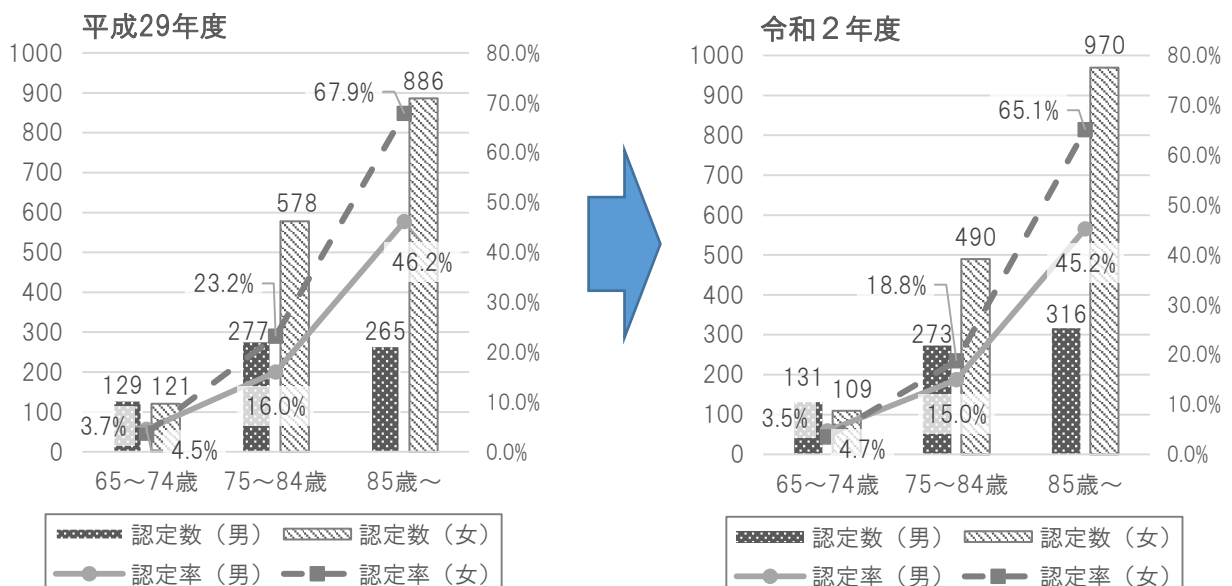
2 高齢者人口の推計



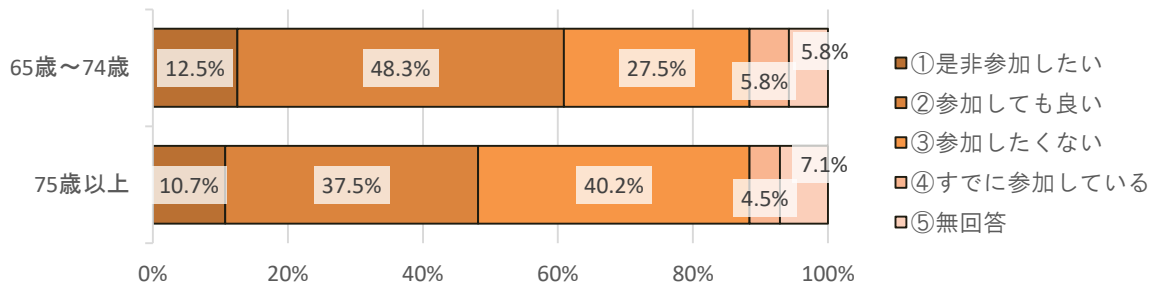
3 ニーズ調査におけるリスク分析 (令和元年度高齢者等実態調査より)



4 要介護認定率の推移

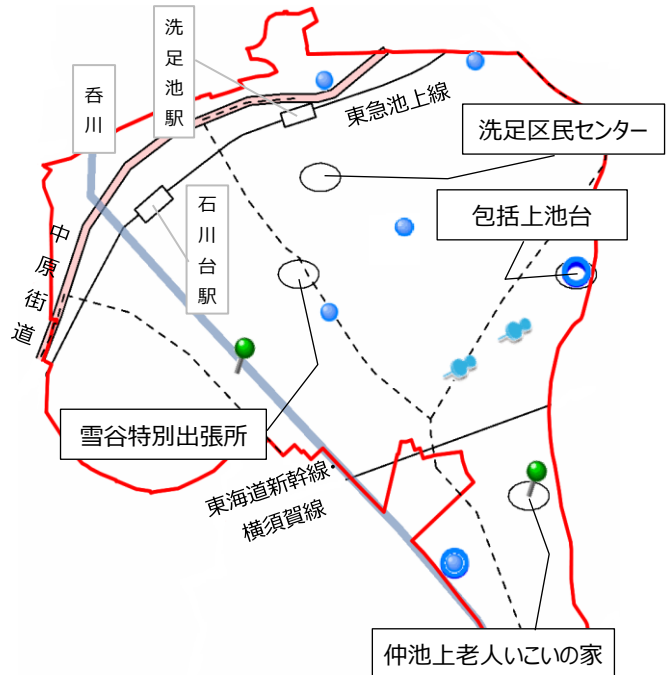


5 地域づくりへの参加意向（令和元年度高齢者等実態調査より）



6 通いの場

認知症予防・認知症カフェ	2 団体
体操	2 団体
趣味活動	2 団体
茶話会・会食	1 団体
その他	5 団体



※点線はバスの路線図となります。

《雪谷地域の課題と取組》

●地域の現状と課題

- 春は桜、夏は青葉が楽しめ、水辺のある遊歩道や公園、由緒ある坂道が多く点在する自然豊かな低層住宅街である。
- 地域活動は各自治会を中心とし、大人から子どもまで参加できる「防災活動拠点訓練」「自治会スポーツ祭り」「さくらフェスティバル」などを毎年開催している。
- 実態調査結果から、生きがいをもって生活している高齢者の割合が大田区内で 1 位、幸福度が 2 位という結果である。
- 高齢者にとって坂道は病気やけがの要因にもなることから、ひとりひとりのフレイル予防意識を高めるとともに地域全体で高齢者の健康を支える取組が必要である。

●課題への取組

- 民生・児童委員による「ゆきがや広場～おしゃべりサロン～」をはじめ、各団体主催のサロン、介護予防教室など、見守り活動や閉じこもり予防を目的とした通いの場が開催されているので、今後も地域全体で身近な場所での通いの場づくりに取り組み、フレイル予防に力を注いでいく。
- 令和元年度に作成した「いきいき雪谷ふれあいマップ」を活用し、まち歩きによる健康づくりに取り組む。
- 『自分の健康は自分で守る』取組みのひとつとして「はねびん健康ポイント事業」の活用を推進する。

千束

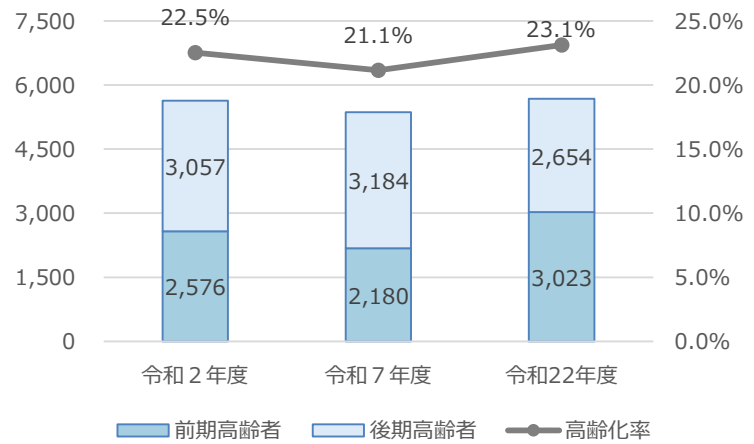
1 地域の人口

(令和2年10月1日現在)

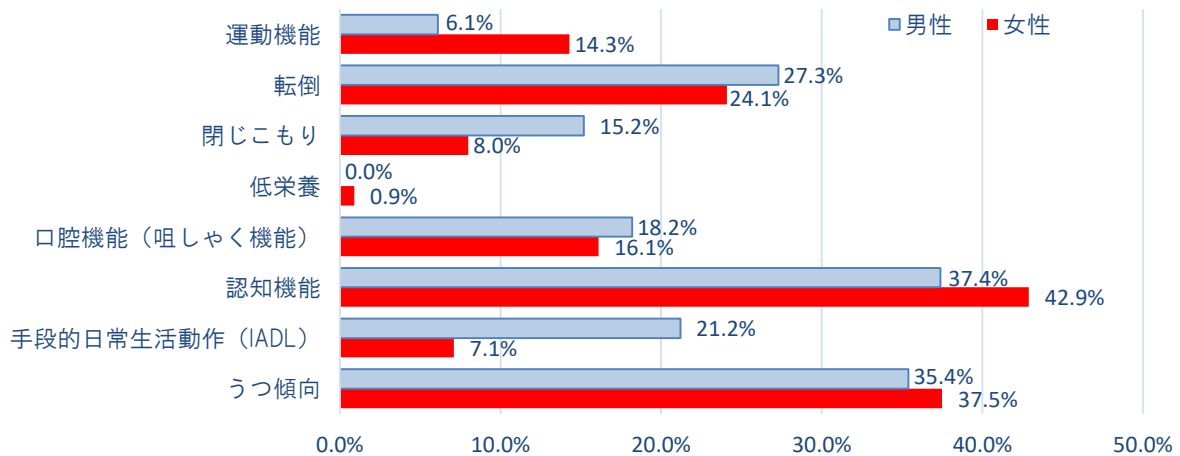
≪管轄人口≫ 25,002人

	男性	女性	割合
0～14歳	1,335	1,348	10.7%
15～64歳	8,059	8,627	66.7%
65～74歳	1,201	1,375	10.3%
75歳以上	1,119	1,938	12.2%
単身高齢者数	493	1,385	

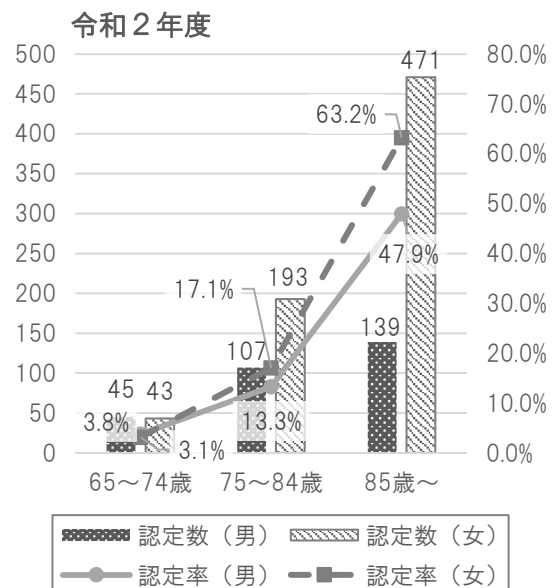
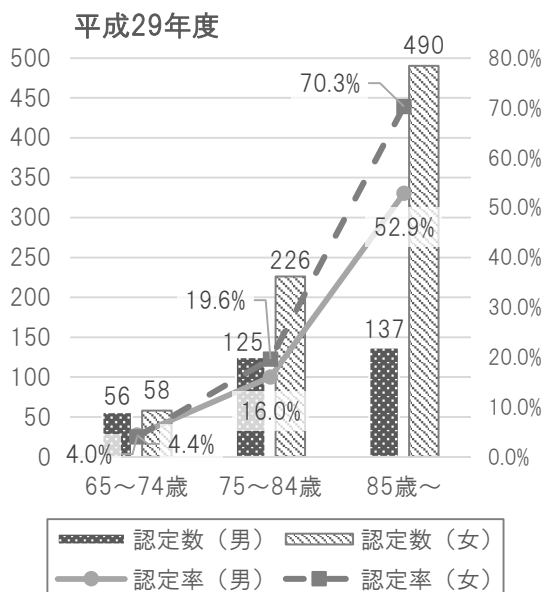
2 高齢者人口の推計



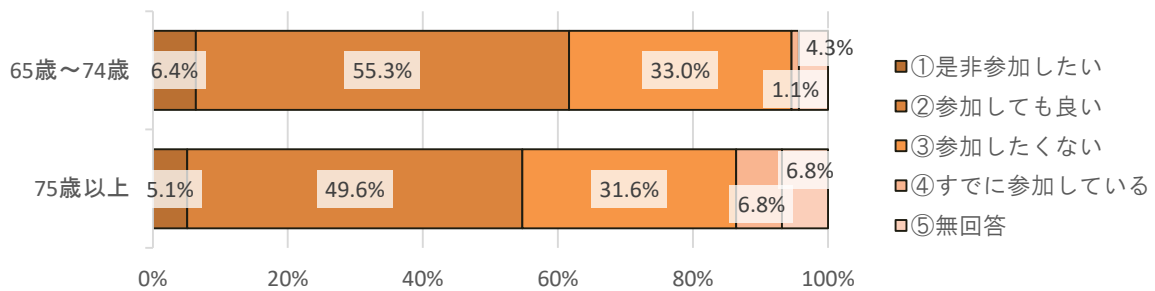
3 ニーズ調査におけるリスク分析 (令和元年度高齢者等実態調査より)



4 要介護認定率の推移

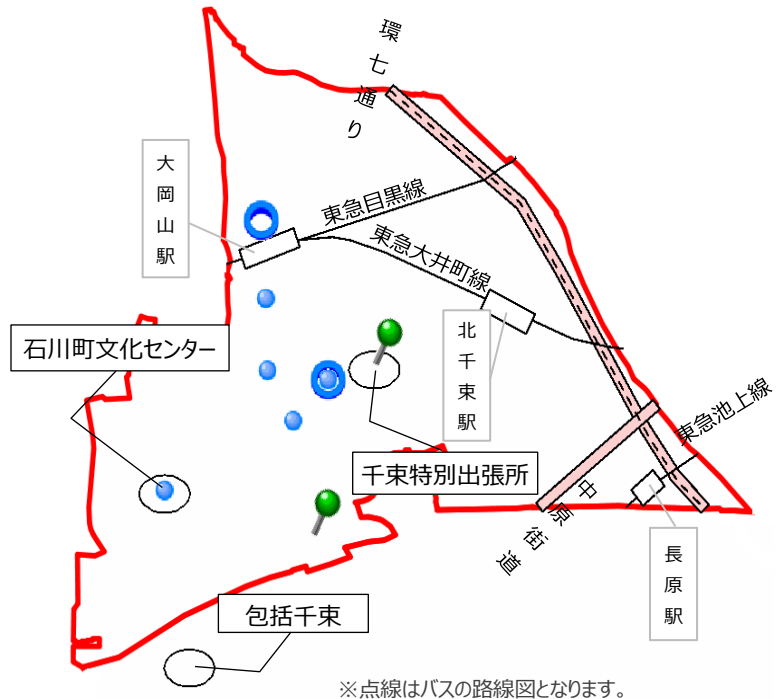


5 地域づくりへの参加意向（令和元年度高齢者等実態調査より）



6 通いの場

認知症予防・認知症カフェ	2 団体
体操	2 団体
趣味活動	0 団体
茶話会・会食	0 団体
その他	5 団体



「千束地域の課題と取組」

● 地域の現状と課題

- 品川、目黒、世田谷区に隣接、2本の幹線道路（中原街道・環七）に挟まれ東急目黒線・大井町線が縦断、ランドマークとして東京工業大学と洗足池が位置している。
- 坂が多い立地で路線バスがなく、足腰を悪くしたり筋力が低下すると途端に通院や買物等の移動困難である。
- 地域の高齢者が集い交流を深め、日常的に支えあい、安心できる「地域づくり」を目的にした「地域ふれあいの会」の活動を年6回、65歳以上の方30～40名を対象に開催している。
- 小学校や文化センター、特別出張所を会場に演奏会、健康の講演等、数多くのイベントを工夫して開催している。
- 気楽に集えたり、フレイル・予防教室等に活用できる公共施設が少なく、地域密着型サービス（グループホームや認知症対応型デイサービス、小規模多機能等）が1ヶ所もないため、今後も継続して自助・共助での健康づくりに地域で取り組んでいく必要がある。

● 課題への取組

- 「地域ふれあいの会」の取組みを地域全体で支え、協力して推進する。
- 健康づくりのため、東京工業大学との連携や洗足池の立地を活かしたフレイル予防方法を構築していく。
- 日常生活圏域レベルの地域ケア会議である「地域包括ケアの会」で多職種による専門性に地域住民の視点も加え、地域課題の解決や取組みを検討していく。

六郷

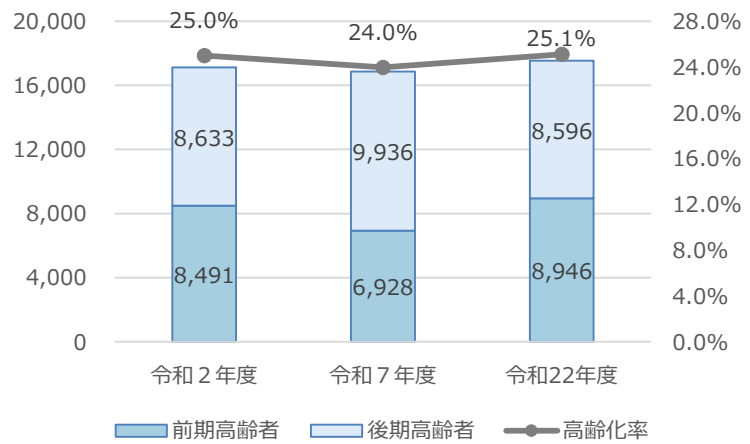
1 地域の人口

(令和2年10月1日現在)

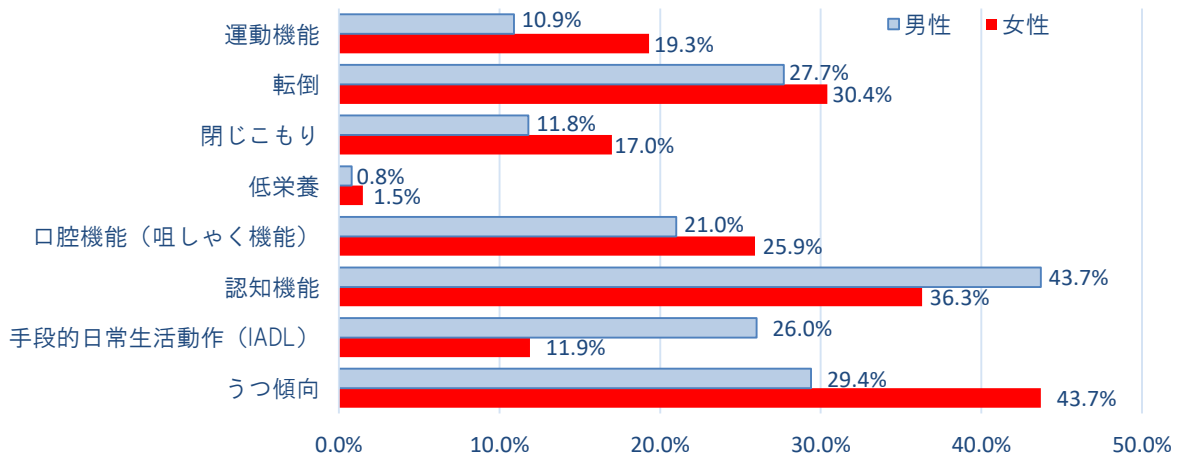
≪管轄人口≫ 68,513人

	男性	女性	割合
0～14歳	4,074	3,845	11.6%
15～64歳	22,977	20,493	63.4%
65～74歳	4,377	4,114	12.4%
75歳以上	3,539	5,094	12.6%
単身高齢者数	2,543	3,549	

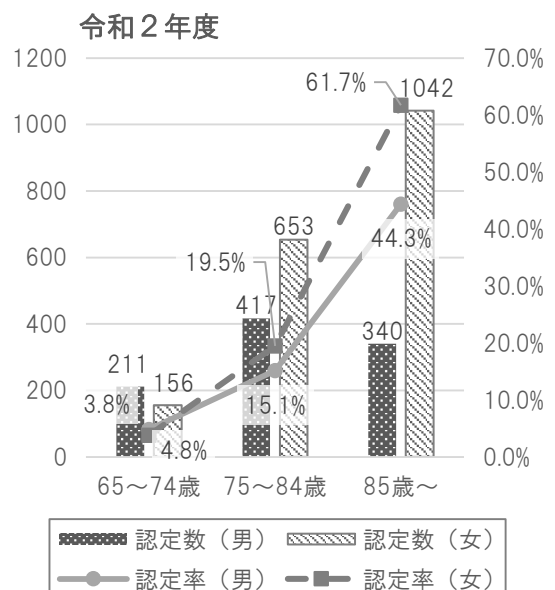
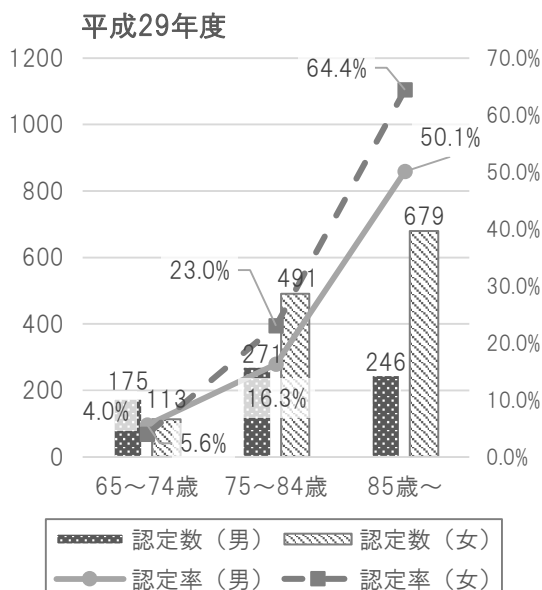
2 高齢者人口の推計



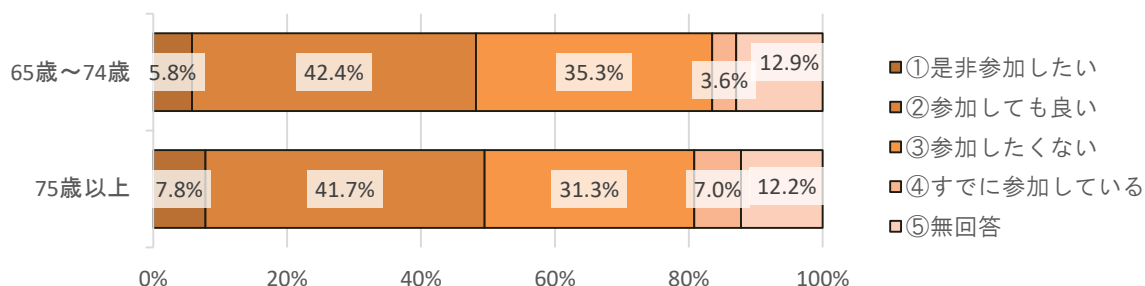
3 ニーズ調査におけるリスク分析 (令和元年度高齢者等実態調査より)



4 要介護認定率の推移



5 地域づくりへの参加意向（令和元年度高齢者等実態調査より）

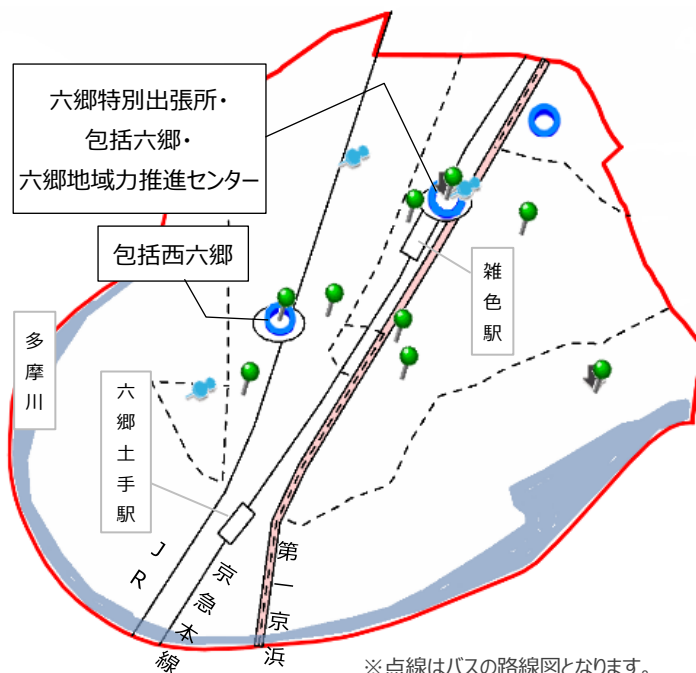


6 通いの場

認知症予防・認知症カフェ	3 団体
体操	22 団体
趣味活動	4 団体
茶話会・会食	2 団体
その他	1 団体

※重複ありの施設

六郷地域力推進センター	体操 10 団体
	趣味活動 2 団体
六郷文化センター	体操 3 団体
東六郷老人いこいの家	体操 2 団体
包括西六郷	体操 2 団体



「六郷地域の課題と取組」

●地域の現状と課題

- 自治会・町会、シニアクラブ等により、高齢者の交流を目的としたサロン・体操教室・ポールウォーク・見守り・在宅の高齢者への配食等の活動が多く実施されている。地域のつながりを実感している人も多い。
- 地区によっては、線路や国道を横断しなければならないことが商店街での買い物や多様な活動に参加するために支障になっている。
- 令和元年度高齢者等実態調査では、充実した生活のために「近所づきあいをする」人が区内の平均より多い一方、「バランスのよい食生活をする」人は、区内の平均よりやや少ない。
- 高齢化率が区内で 2 番目に高く、高齢者人口は最も多い。内、約 4 割が単身高齢者である。

●課題への取組

- 既に多く実施されている活動が継続できるよう、感染症の状況を踏まえ、密閉・密集・密接を避けた実施方法等を探っていく。
- 高齢者の身近な行動範囲内で、通いの場に参加できるよう、活動の立ち上げや継続を支援する。
- スーパーでの栄養バランスの周知など、生活の実態に応じてフレイル予防に取り組めるような支援を行う。
- 年々増えるひとり暮らしの高齢者に対して、地域の方々と協力しながら、電話、訪問等で実態把握を行う。
- 高齢者一人ひとりの健康への意識を高めるとともに、孤立を防ぐことを重視し、高齢者と地域とのつながりを深められるよう取り組む。

矢口

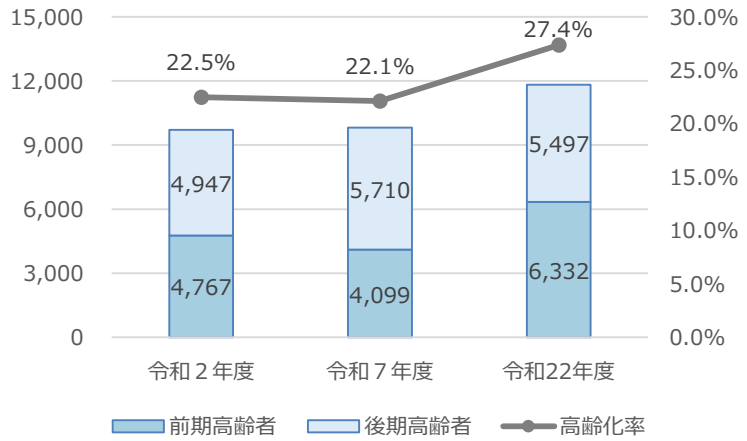
1 地域の人口

(令和2年10月1日現在)

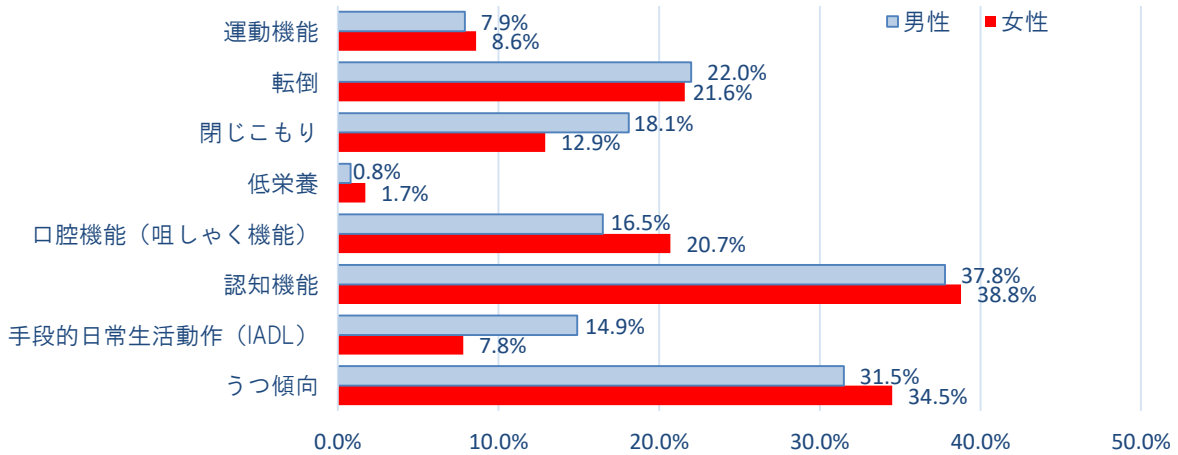
≪管轄人口≫ 43,230人

	男性	女性	割合
0～14歳	2,432	2,252	10.8%
15～64歳	14,271	14,561	66.7%
65～74歳	2,320	2,447	11.0%
75歳以上	1,934	3,013	11.4%
単身高齢者数	1,133	2,195	

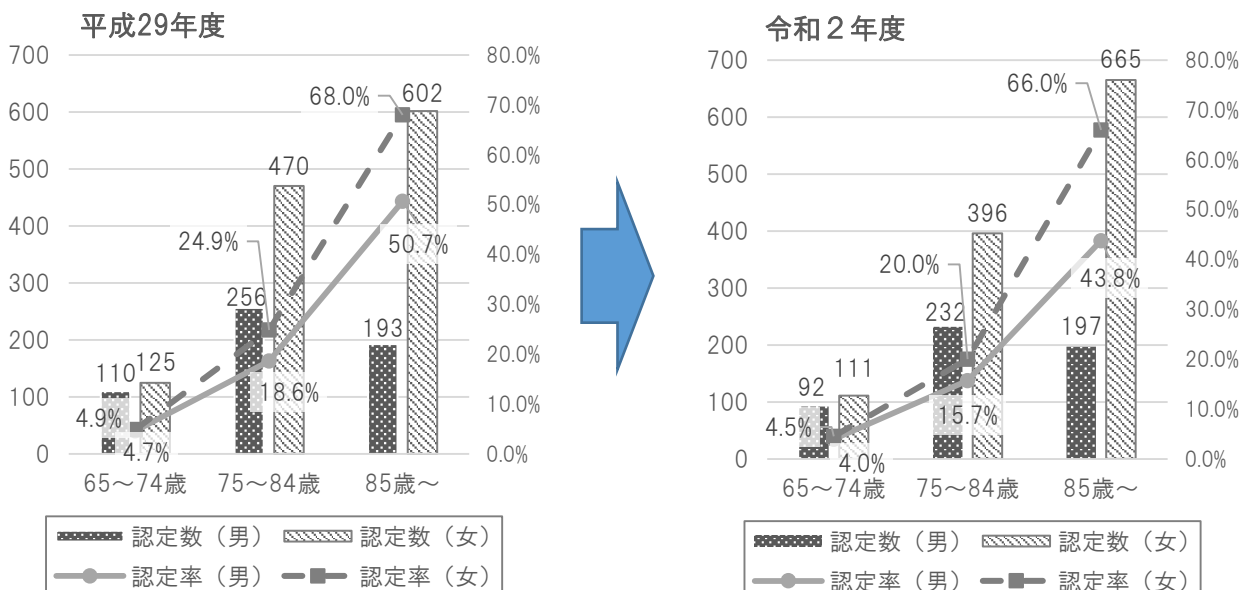
2 高齢者人口の推計



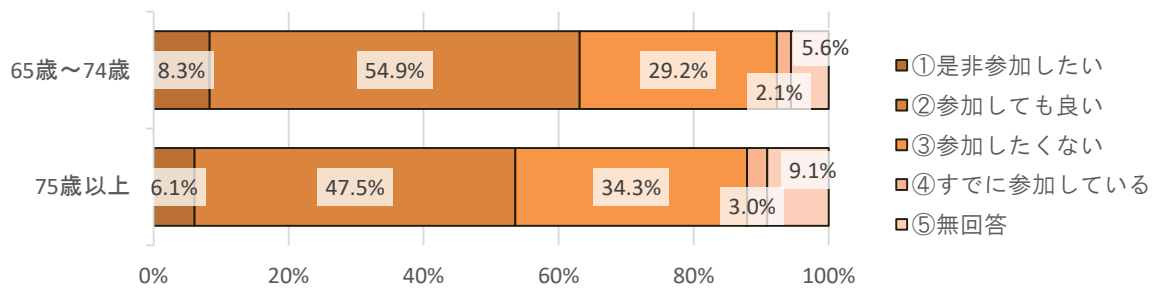
3 ニーズ調査におけるリスク分析 (令和元年度高齢者等実態調査より)



4 要介護認定率の推移



5 地域づくりへの参加意向（令和元年度高齢者等実態調査より）



6 通いの場

認知症予防・認知症カフェ	2 団体
体操	18 団体
趣味活動	9 団体
茶話会・会食	1 団体
その他	2 団体

※重複ありの施設

- 矢口区民センター・・・体操 8 団体
趣味活動 5 団体
- 大田区民プラザ・・・体操 2 団体



《矢口地域の課題と取組》

●地域の現状と課題

- 地区ほぼ中央部に、プールや高齢者施設（ゆうゆうくらぶ）も備える区民センターがあり、様々なグループにより、体操・趣味活動等、多様な活動が行われている。
- 自治会・町会、シニアクラブ、介護事業所等による高齢者の交流を目的としたサロン・体操教室・ポールウォーク等の取組が多くある。
- 令和元年度高齢者等実態調査では、地域づくり活動へ「参加者」としての参加意向だけでなく、「企画・運営役」としての参加意向が、区内平均より高い。
- 地区内の移動にたまちゃんバスを活用できる。また、地区内の高低差は少ない。
- 特にひとり暮らしの男性に、地域と関わりが少なくフレイル予防に取り組めない人が多い。

●課題への取組

- 既に多く実施されている活動が継続できるよう、感染症の状況を踏まえ、地域の名所を活用したウォーキングなど、密閉・密集・密接を避けた実施方法等を探っていく。
- 高齢者が歩いて行ける範囲で何らかの活動に参加できるよう、各自治会・町会の範囲の区域に、通いの場の活動が行われるよう、立ち上げや活動の継続を支援する。
- 通いの場のチラシにたまちゃんバスの利用案内を載せる等、移動手段として活用を促す。
- 自治会・町会等とつながりのないひとり暮らし高齢者等に対しても、地域包括支援センターや民生委員から自治会・町会の活動等を周知できるよう、情報を集約・整理する。

浦田西

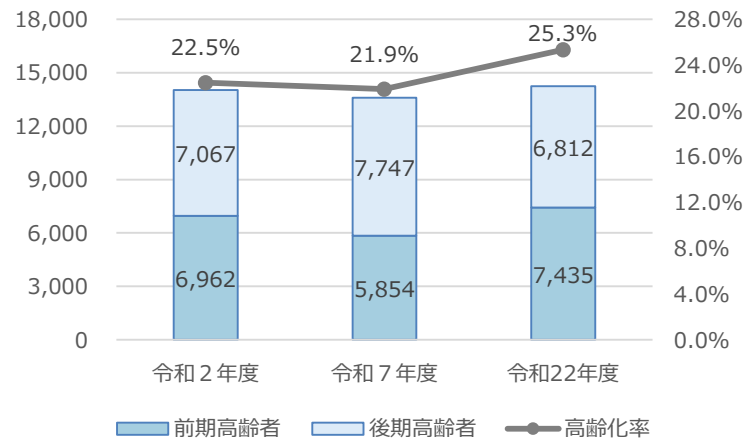
1 地域の人口

(令和2年10月1日現在)

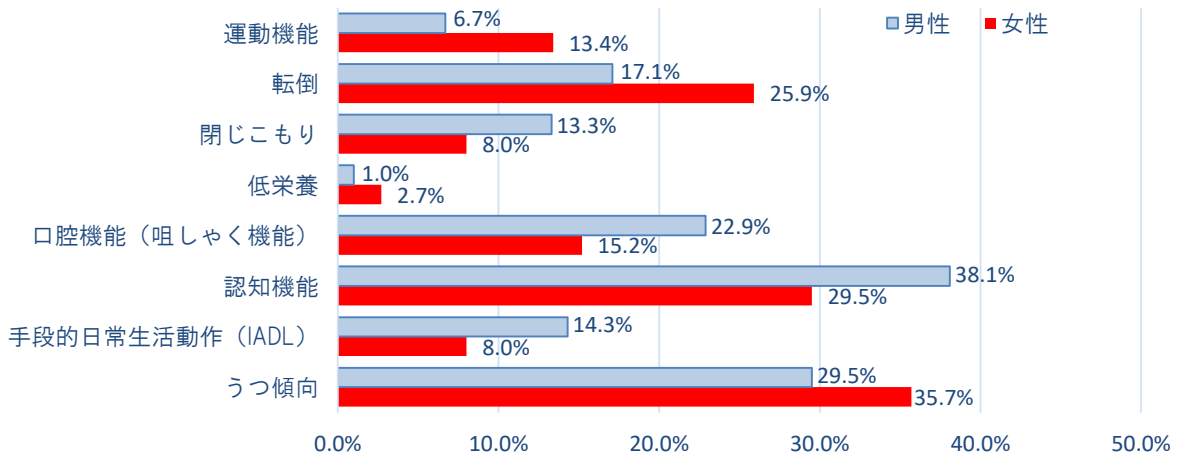
≪管轄人口≫ 62,482人

	男性	女性	割合
0～14歳	3,045	2,880	9.5%
15～64歳	23,082	19,446	68.1%
65～74歳	3,587	3,375	11.1%
75歳以上	2,763	4,304	11.3%
単身高齢者数	2,206	3,224	

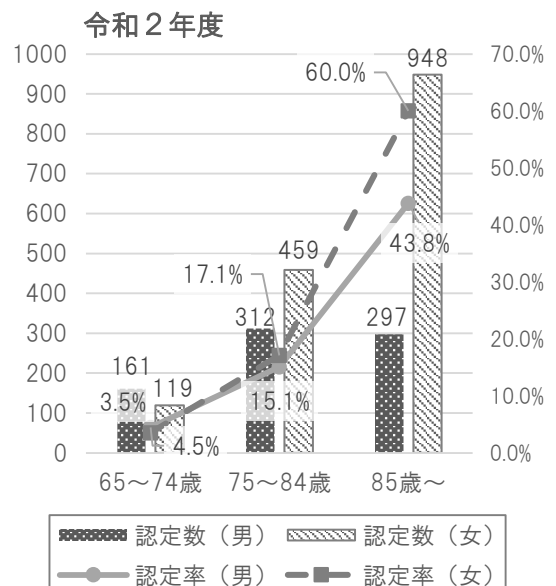
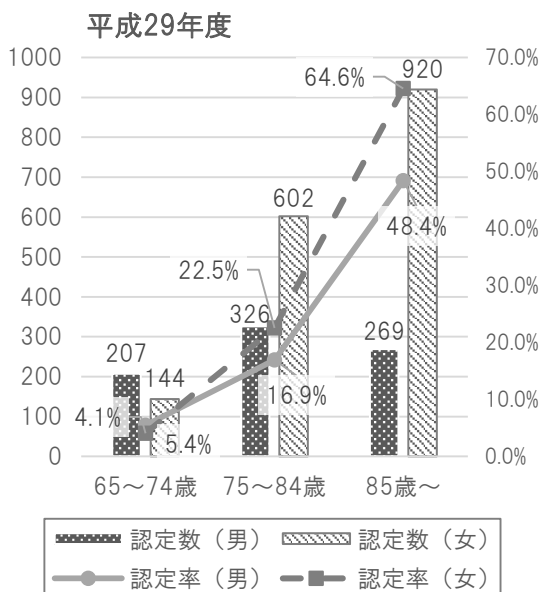
2 高齢者人口の推計



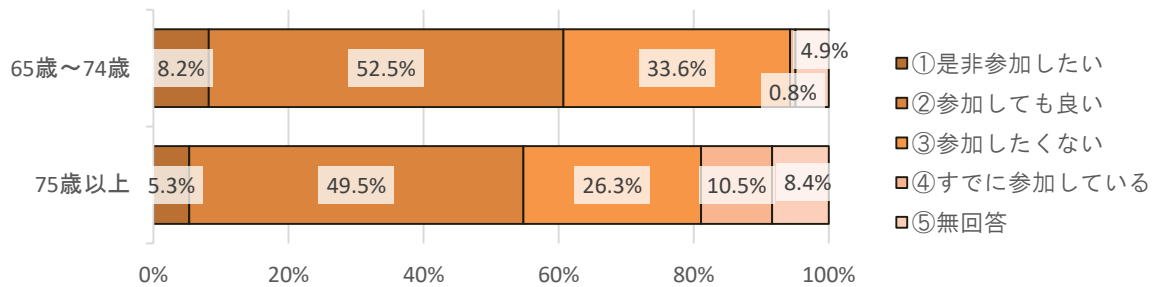
3 ニーズ調査におけるリスク分析 (令和元年度高齢者等実態調査より)



4 要介護認定率の推移

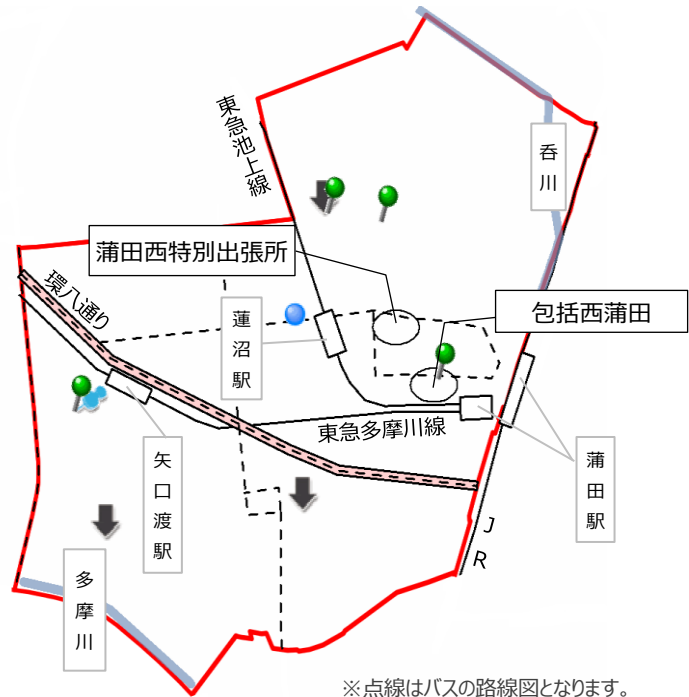


5 地域づくりへの参加意向（令和元年度高齢者等実態調査より）



6 通いの場

認知症予防・認知症カフェ	0 団体
体操	4 団体
趣味活動	1 団体
茶話会・会食	3 団体
その他	1 団体



「浦田西地域の課題と取組」

●地域の現状と課題

- 町会会館・医療機関・介護事業所・神社社務所・ふれあいはすぬま等、多様な場所を活用し、高齢者の交流を目的としたサロン・体操教室・グラウンドゴルフ等多くの活動が行われているが、場所の確保が難しい団体もある。
- 自主的な見守り活動を実施している自治会・町会、シニアクラブがある。
- 特にひとり暮らしの男性に、地域と関わりが少なくフレイル予防に取り組めない人が多い。
- 集中豪雨時に家屋1階が浸水する危険のある地区がある。

●課題への取組

- 高齢者が歩いて行ける範囲で何らかの活動に参加できるよう、各自治会・町会の範囲の区域に、通いの場の活動が行われるよう支援する。
- 既に多く実施されている通いの場や見守りの活動が継続できるよう、感染症の状況を踏まえ、密閉・密集・密接を避けた実施方法等を探っていく。
- フレイル予防を推進する取組として、「はねびん健康ポイント」を活かしたウォーキング等を提案していく。
- 自治会・町会等とつながりのないひとり暮らし高齢者等に対しても、地域包括支援センターや民生委員から自治会・町会の活動等を周知できるよう、情報を集約・整理する。
- 地域の方々と協力しながら訪問等により高齢者を見守り、災害時の事前の備えについても周知していく。

蒲田東

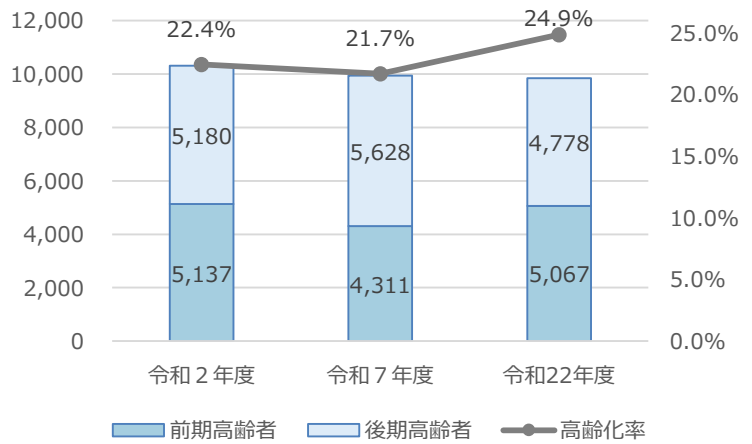
1 地域の人口

(令和2年10月1日現在)

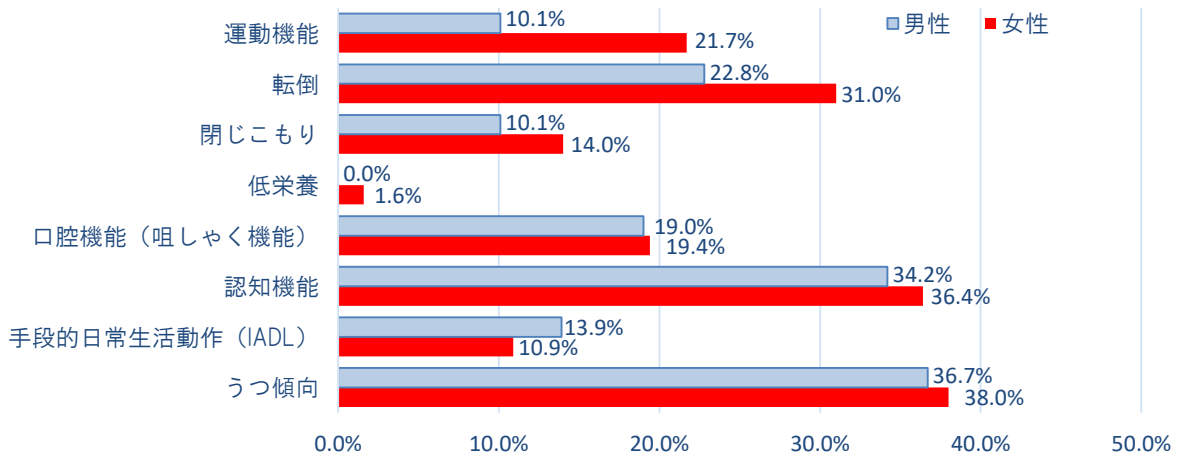
≪管轄人口≫ 45,981人

	男性	女性	割合
0～14歳	1,881	1,777	8.0%
15～64歳	16,972	15,034	69.6%
65～74歳	2,701	2,436	11.2%
75歳以上	2,081	3,099	11.3%
単身高齢者数	1,841	2,338	

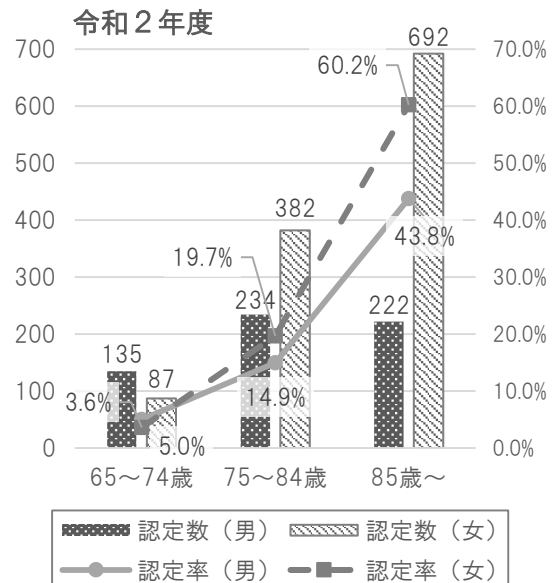
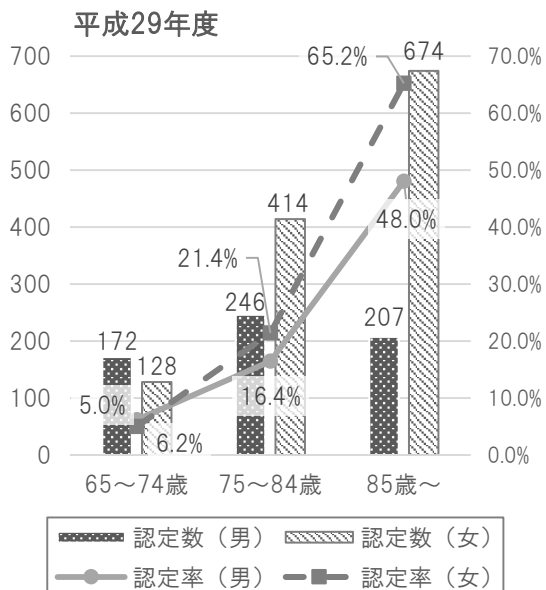
2 高齢者人口の推計



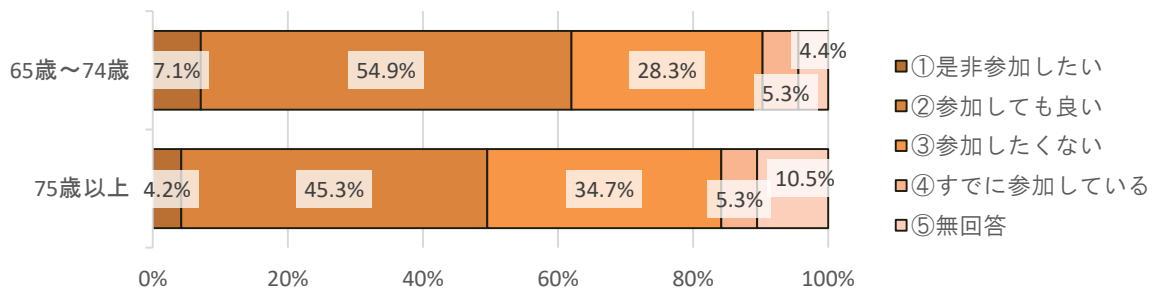
3 ニーズ調査におけるリスク分析 (令和元年度高齢者等実態調査より)



4 要介護認定率の推移



5 地域づくりへの参加意向（令和元年度高齢者等実態調査より）

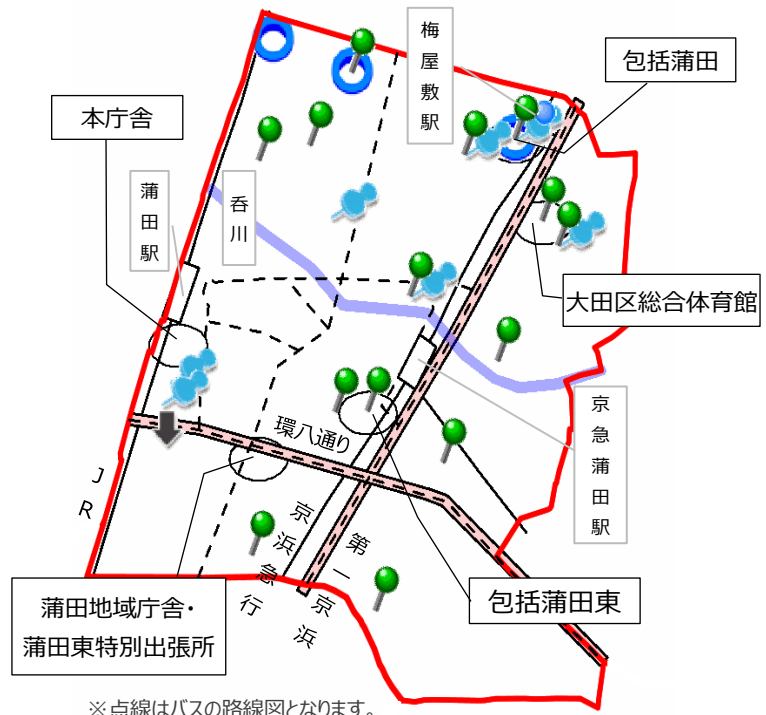


6 通いの場

	認知症予防・認知症カフェ	3 団体
	体操	22 団体
	趣味活動	8 団体
	茶話会・会食	1 団体
	その他	1 団体

※重複ありの施設

北蒲広場・・・体操 5 団体
 蒲田図書館・・・体操 4 団体



＜＜蒲田東地域の課題と取組＞＞

●地域の現状と課題

- 自治会・町会、民生委員、シニアクラブ等により、高齢者の交流を目的としたサロン・体操教室・ポールウォーク等が多く実施されているが、場所の確保が難しい地域もある。
- 自主的な見守り活動を実施している自治会・町会もある。
- 特にひとり暮らしの男性に、地域と関わりが少ない人が多い。令和元年度高齢者等実態調査では、地域のつながりを実感している人が区内平均よりも少ない。
- 見守りや地域活動に高齢者を誘う際、個人情報の取扱いが課題となることがある。

●課題への取組

- 既に多く実施されている通いの場や見守りの活動が継続できるよう、感染症の状況を踏まえ、屋外での活動等、密閉・密集・密接を避けた実施方法等を探っていく。活動場所についても提案ができるよう、民間事業所の施設等も含め情報を収集していく。
- 高齢者が顔見知りを増やし、地域とのつながりを実感できることをめざし、歩いて行ける身近な地域での、活動の立ち上げや継続を支援する。
- 自治会・町会等とつながりのないひとり暮らし高齢者等に対しても、地域包括支援センターや民生委員から自治会・町会の活動等を周知できるよう、情報を集約・整理する。

大森東

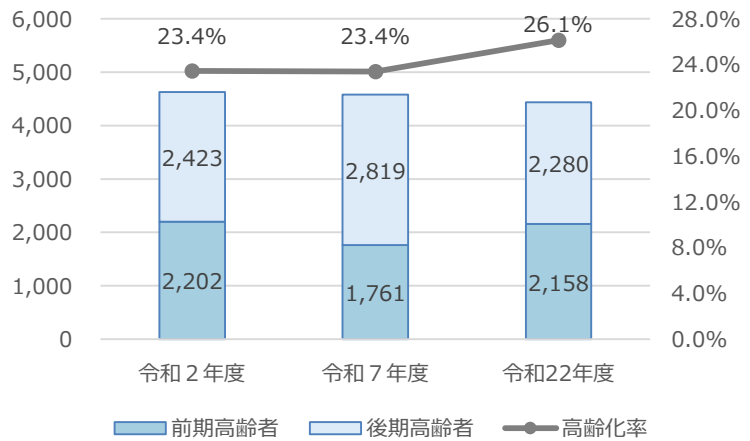
1 地域の人口

(令和2年10月1日現在)

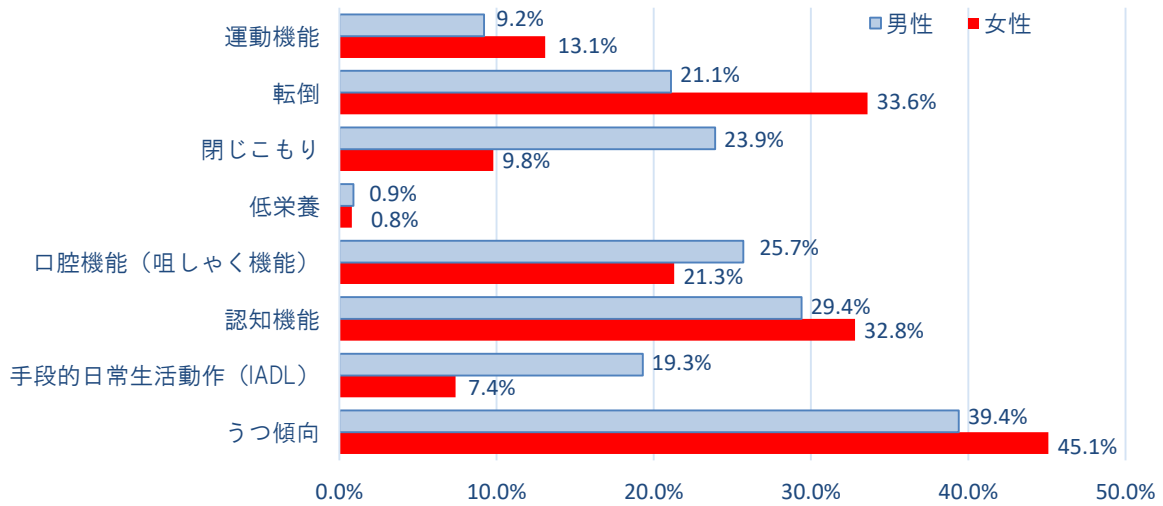
≪管轄人口≫ 19,725人

	男性	女性	割合
0～14歳	1,143	1,115	11.4%
15～64歳	7,056	5,786	65.1%
65～74歳	1,196	1,006	11.2%
75歳以上	1,030	1,393	12.3%
単身高齢者数	852	917	

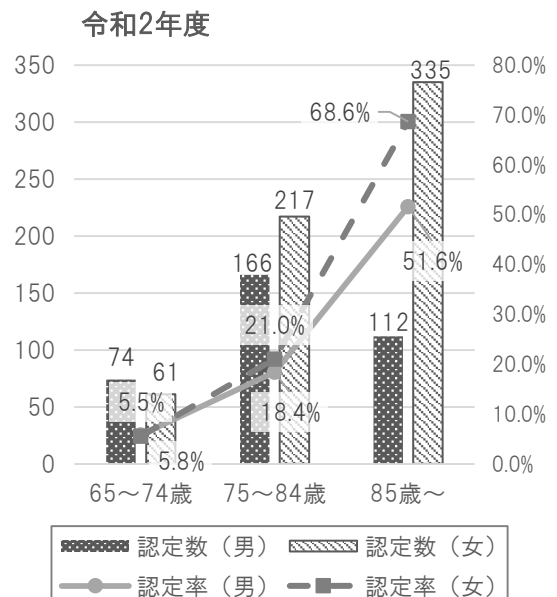
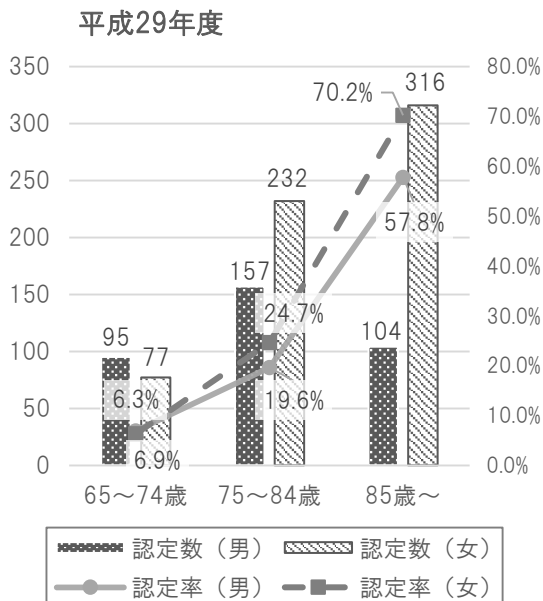
2 高齢者人口の推計



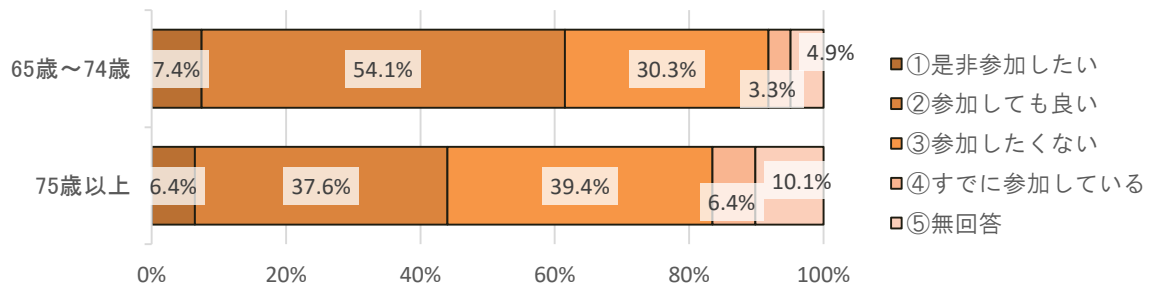
3 ニーズ調査におけるリスク分析 (令和元年度高齢者等実態調査より)



4 要介護認定率の推移



5 地域づくりへの参加意向（令和元年度高齢者等実態調査より）

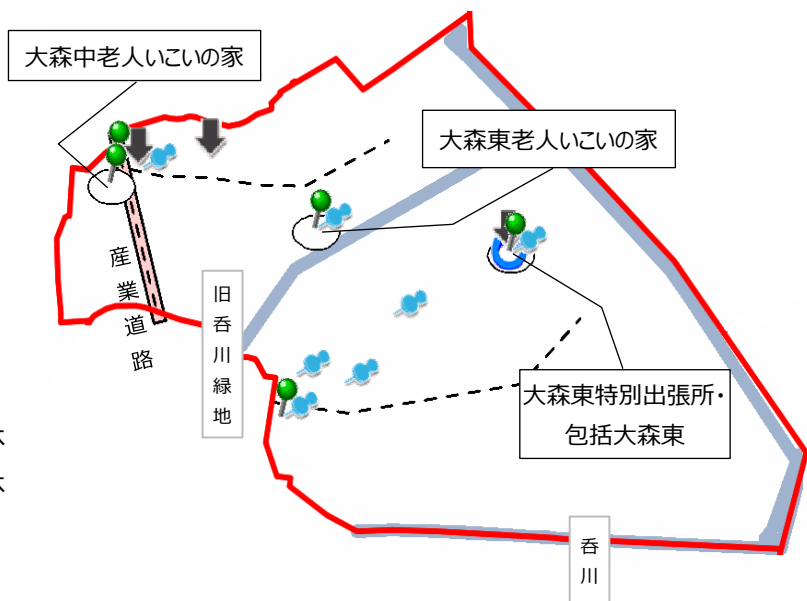


6 通いの場

認知症予防・認知症カフェ	1 団体
体操	11 団体
趣味活動	7 団体
茶話会・会食	3 団体
その他	0 団体

※重複ありの施設

- 大森東特別出張所・・・体操 3 団体
- 大森東老人いこいの家・・・体操 4 団体
- 大森中老人いこいの家・・・体操 2 団体



※点線はバスの路線図となります。

《大森東地域の課題と取組》

●地域の現状と課題

（現状）○住民同士が声を掛け合い、健康活動や生活の困りごとを助け合う風土がある。

○住民による自主グループ活動では健康活動に取り組みながら、福祉施設との交流を盛んに行っている。

○ニーズ調査におけるリスク分析からは、「高齢者になってもバランスの良い食事を行い、良質な栄養状態を維持されている」、「男女ともうつ傾向の方が多い」等が挙げられる。

（課題）○自治会を中心としたイベントや防災訓練などの活動が盛んに行われているが、高齢者（75歳以上）や若年層の参加が低下している。

○気軽に集える施設が少なく、また交通の便が悪い場所に点在しているため通うのが難しい。

●課題への取組

○各自治会が開催する『盆踊り・子ども祭り』や『いつつのわふれあい祭り』を通じて、世代間交流を積極的に行う。

○高齢者が安心して暮らせるように、民生委員・地域包括支援センター等による実態把握・見守り活動を進める。

○単身高齢者が今後も増加していくため、一人でも気軽に参加できる集いの場づくりに取り組むとともに、災害時等のスムーズな助け合いにつながるような関係づくりの構築を図る。

梶谷

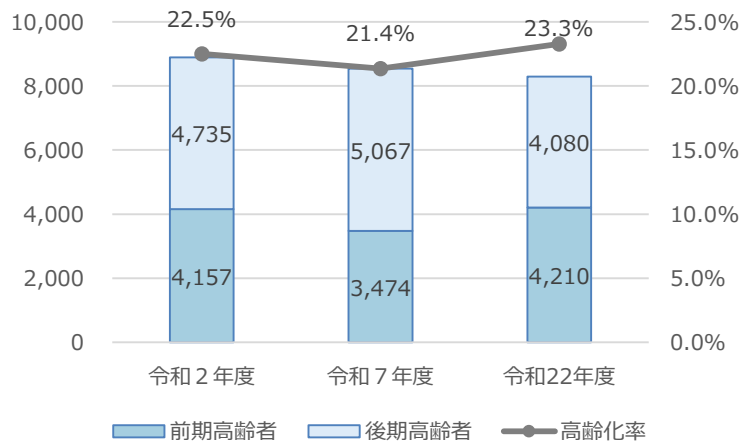
1 地域の人口

(令和2年10月1日現在)

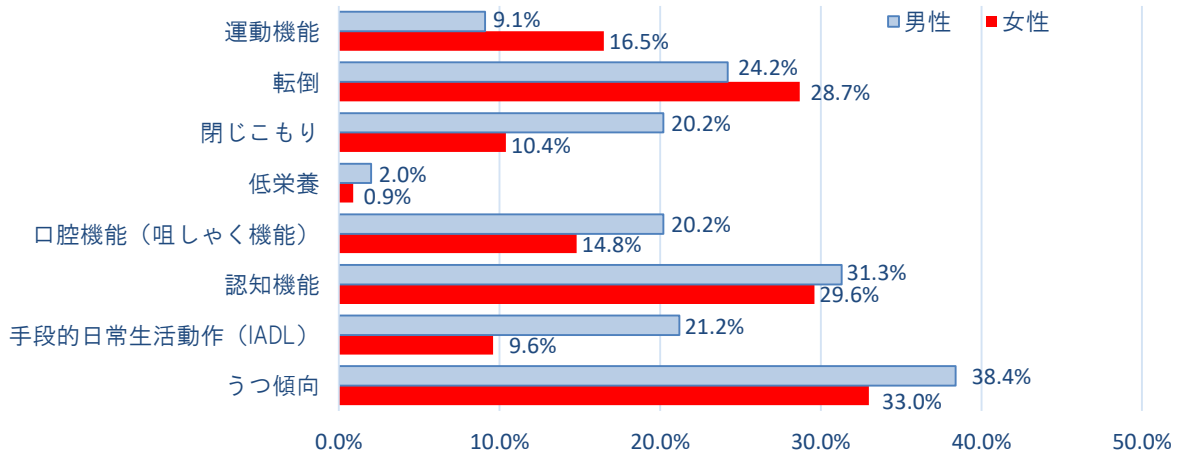
《管轄人口》39,513人

	男性	女性	割合
0～14歳	2,018	1,944	10.0%
15～64歳	13,187	13,472	67.5%
65～74歳	2,076	2,081	10.5%
75歳以上	1,899	2,836	12.0%
単身高齢者数	1,169	1,899	

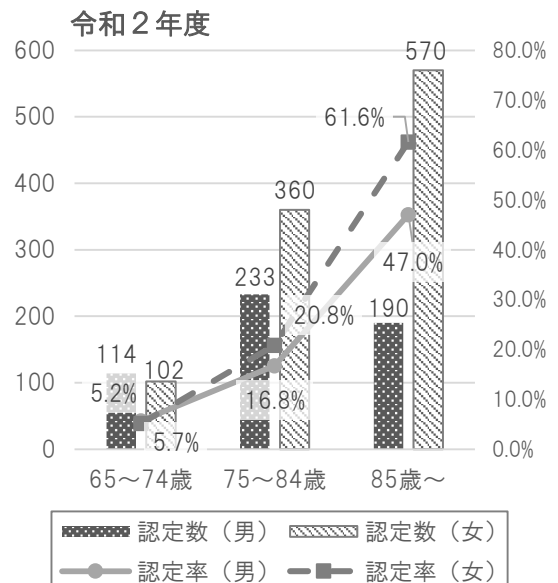
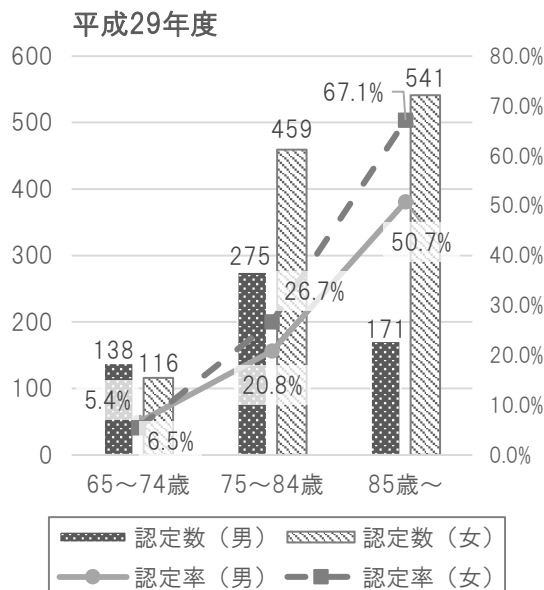
2 高齢者人口の推計



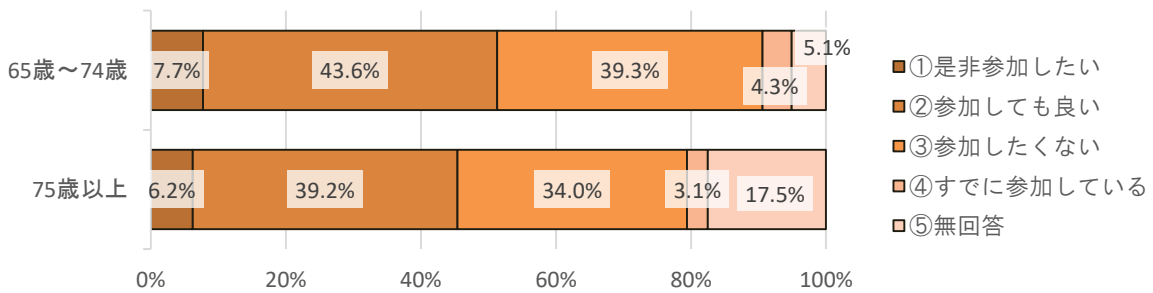
3 ニーズ調査におけるリスク分析 (令和元年度高齢者等実態調査より)



4 要介護認定率の推移



5 地域づくりへの参加意向（令和元年度高齢者等実態調査より）



6 通いの場

認知症予防・認知症カフェ	3 団体
体操	5 団体
趣味活動	4 団体
茶話会・会食	1 団体
その他	0 団体

※重複ありの施設

特養糶谷・・・趣味活動 2 団体
糶谷文化センター・・・体操 2 団体



※点線はバスの路線図となります。

「糶谷地域の課題と取組」

● 地域の現状と課題

（現状）○地域のつながりが強く、地域内の町会がまとまっている。

○福祉施設が数多く設置され、自治会・町会、行政との連携による「福祉施設連絡会」の開催、そこから誕生した「福祉のまち糶谷 夏のおまつり」の実施、「福祉のまち糶谷かわらばん」の発行等、「福祉のまち糶谷」の取組みが進められている。

○元気シニア・プロジェクトのモデル地区として、地域ぐるみでフレイル予防に取り組んでおり、要介護認定率の減少にもつながっている。

（課題）○ニーズ調査におけるリスク分析で、男性の閉じこもり・日常生活動作のリスクが女性に比べ高く、女性は運動機能・転倒のリスクが男性に比べ高い傾向にある。

○地域づくりへの参加意向では、30～40%が参加の希望を持っていない。

● 課題への取組

○シニアクラブを中心に取り組んでいるポールウォーク等の自主活動が地域に広がるように支援していく。

○自治会・町会で行っているフレイル予防の活動が充実するように、関係機関とのつながりを強化していく。

○男性の閉じこもり防止のため、地域の声を聞きながら、様々なニーズに応じた仕組みを企画する。

○地域の高齢者が気軽に参加できる通いの場やサロン等の情報収集を進めるとともに、育成支援を行う。

○地域のつながりを生かして、見守り活動（見守り、見守られる関係性の構築）を強化していく。

羽田

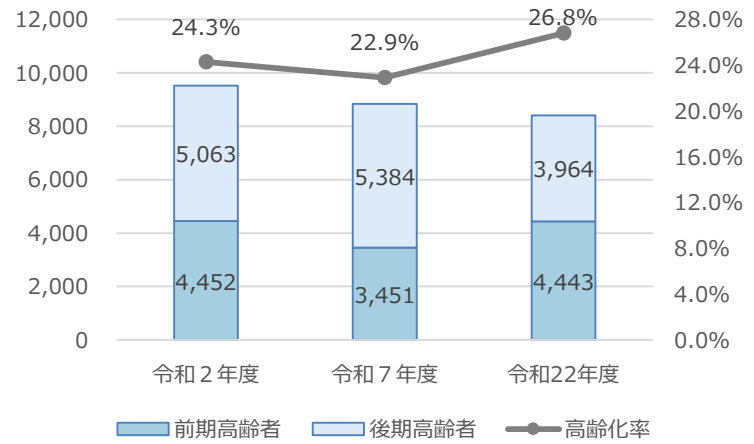
1 地域の人口

(令和2年10月1日現在)

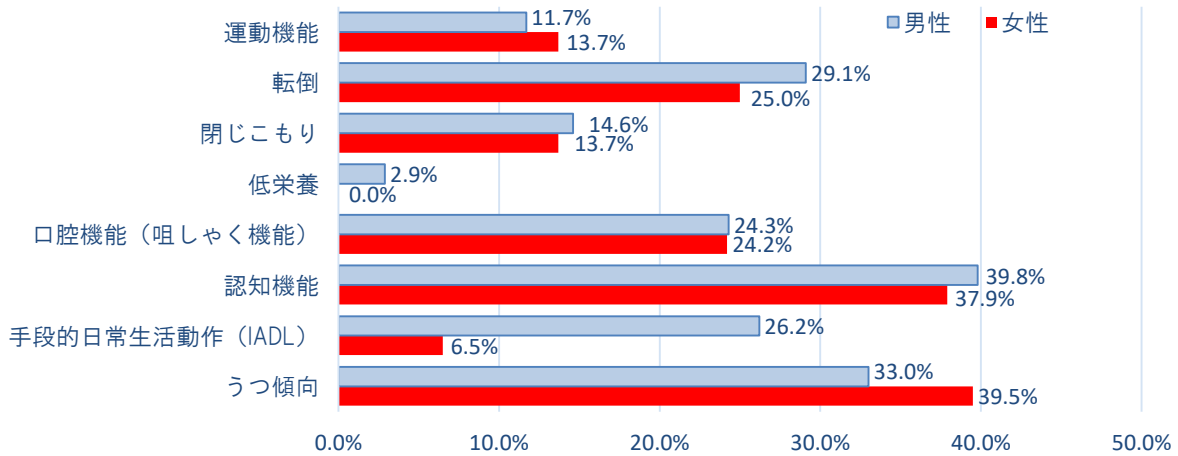
《管轄人口》 39,191人

	男性	女性	割合
0～14歳	1,973	1,926	9.9%
15～64歳	13,223	12,554	65.8%
65～74歳	2,304	2,148	11.4%
75歳以上	2,007	3,056	12.9%
単身高齢者数	1,379	1,977	

2 高齢者人口の推計



3 ニーズ調査におけるリスク分析 (令和元年度高齢者等実態調査より)



4 要介護認定率の推移

